

玩具 真少女

TOY
GIRL

Takahiro Hiryu

緋龍高弘



あたしで良かったら
慰めてあげるよ？



お兄さんどうしたの？

一人で寂しいの？



ね…？

a story



いじりか...

あたしの身体
お兄さんの好きにして
いいんだよ



もう
こんな
なってるの

ねえ...
早く...







よかった

すっきりした顔してる

じゃ、あたし…
もう行くね



あ…ん…



これで思い残す事も
無いよね

お兄さん

そこを見つけたのは偶然だった



少しだけ開いた鉄の扉の奥



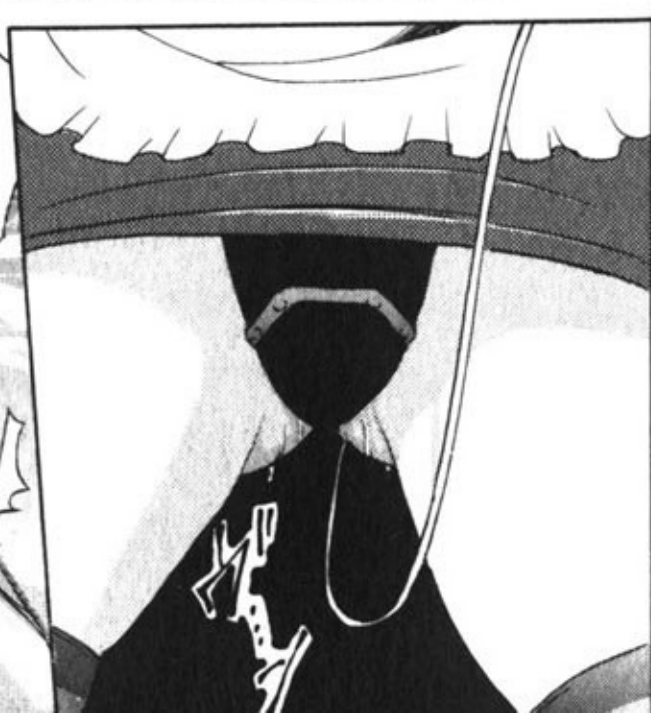
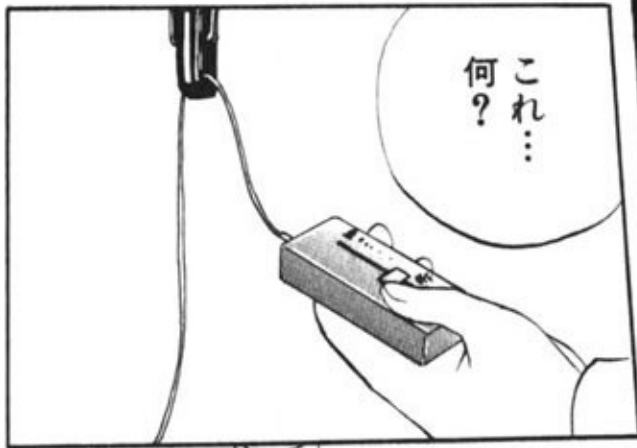
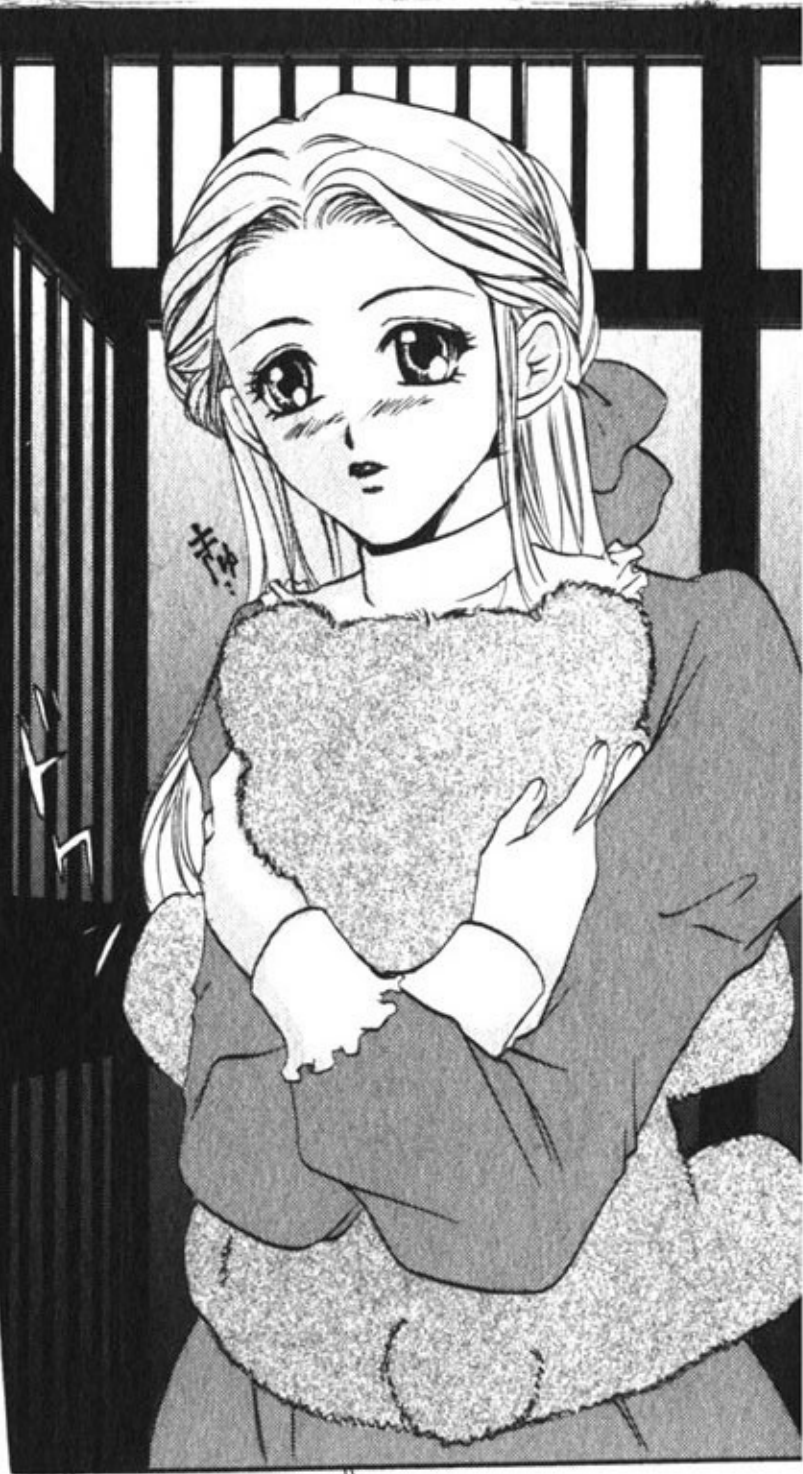
その中に



鎖につながれた女の人がいた

akaikusari
赤い鎖
静寂の檻







お父さま…

だめじゃないか
勝手に入っちゃ

—これに
さわったのかい？

—お父さま
この人苦しいの？



沙耶が
それにさわったせい？

—違うよ 沙耶
この人はねえ
喜んでるんだよ





ほらこんな
に
いっばい濡れてるだろう
気持ちのいい証拠なんだよ



見ていてごらん
この人をもっと
喜ばせてあげる
よ...







沙耶
病気なの？

ここが熱いの…

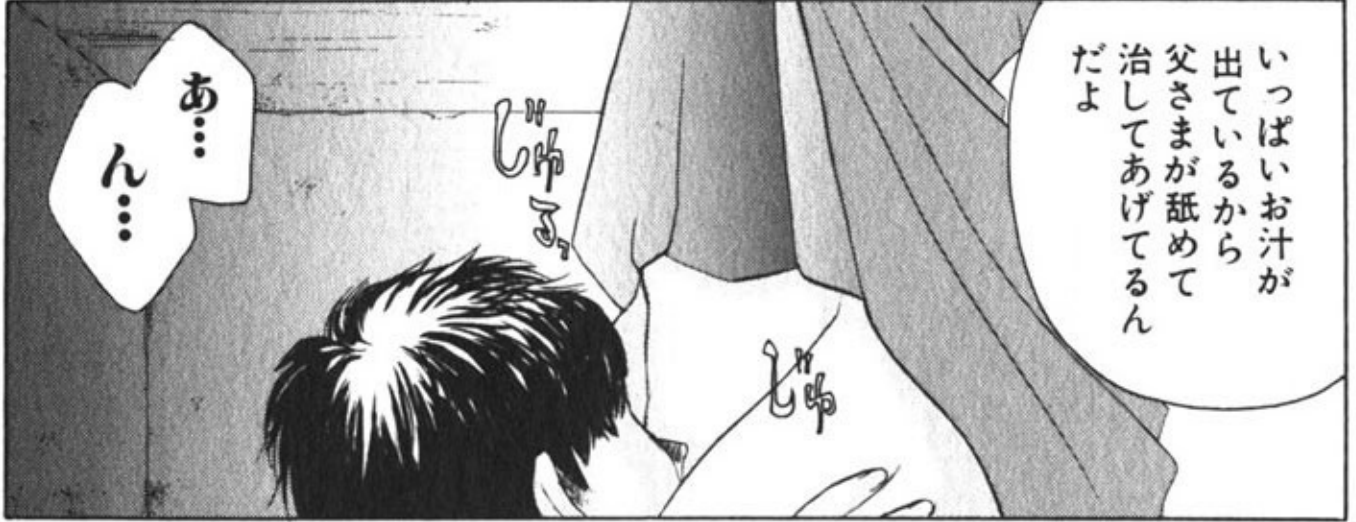
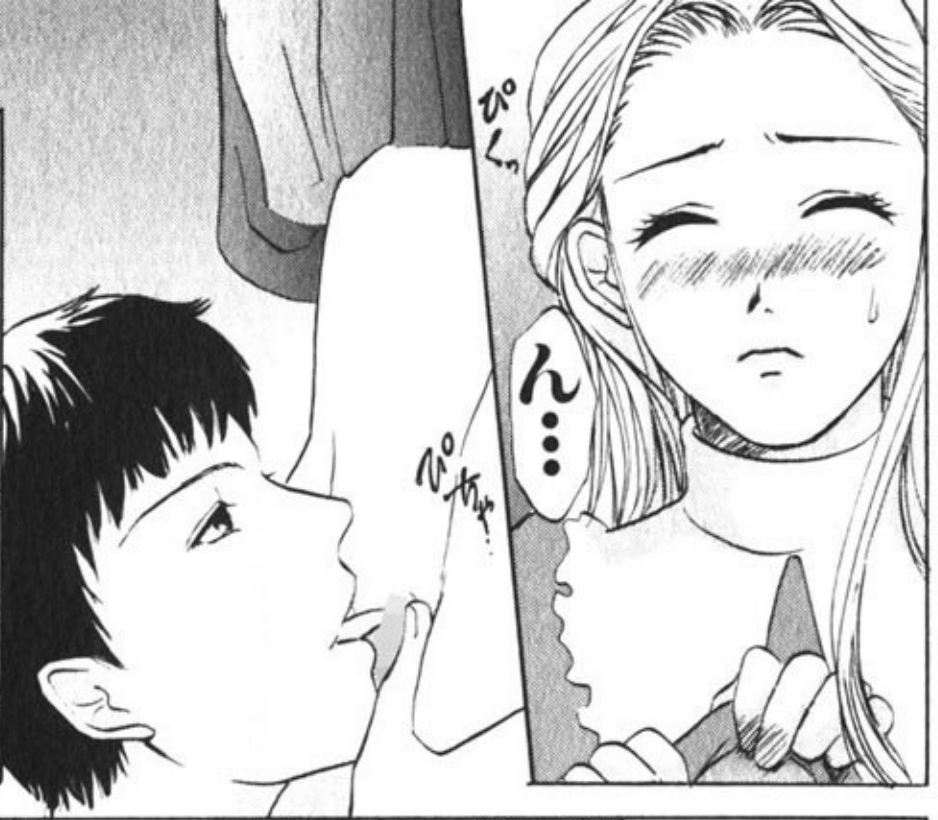


—父さまに
見せてごらん



おや
濡れてるね

すっ…



んんん…

しゃあああ…



ひひひ…

—おもらししたね…
悪い子にはおしおきだ





お父さま!?

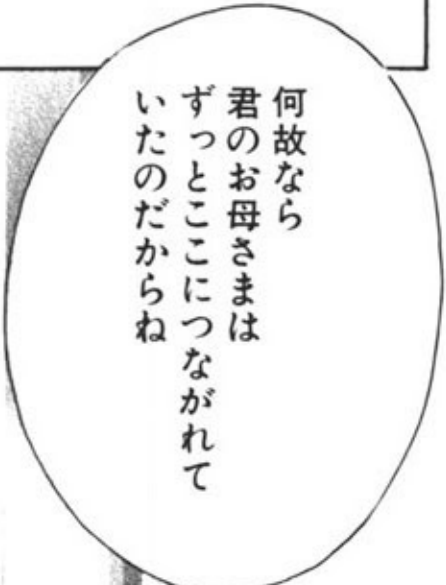


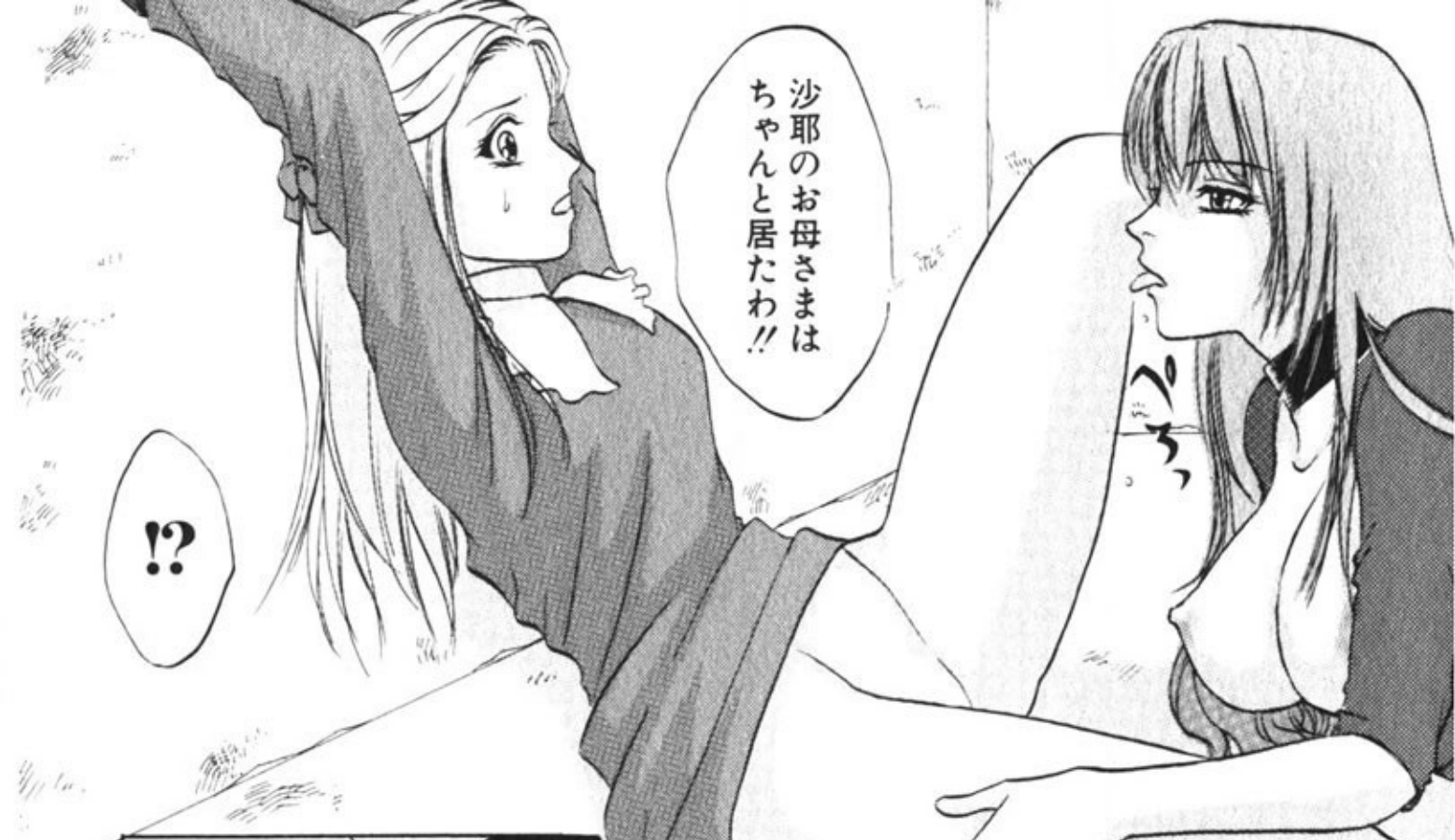
言っただらろ?
「悪い子には
おしおきだ」って



—おいで
さやか...

(は)
(は)
(あ)





沙耶のお母さまは
ちゃんと居たわ!!

!?



君が5歳の時に
死んだんだっただね
沙夜子は…

そうだね



——気持ち
いいかい沙耶

あっ

ん

んうっ…

やっ

てんや



あゝあゝ!!

痛いっ

いたいよ
お父さまっっ

りぢぢ

りぢぢ

抜いんじ
ぬいんぢ...!!



沙夜子が
死んでから...

あつ...

君が大人になるまで
随分と待たされた

これからはもっと
愛してあげるよ

僕の愛しい沙耶

THE END

覚

ka-ku-sei

醒

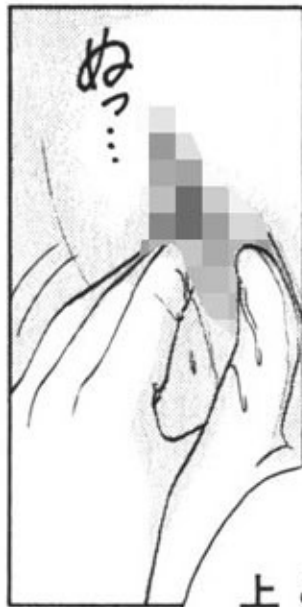




へえ？
なかなか感度が
いいわね

ビクッ
ビクッ
ビクッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ



ぬっ…



ふっ…

吸いつきもいいし
色も綺麗だ

これは
上玉よ

ビクッ

ビクッ
ビクッ
ビクッ



ビクッ
ビクッ
ビクッ



そう…言ったのだ





—おつれしました

待っていたわ…

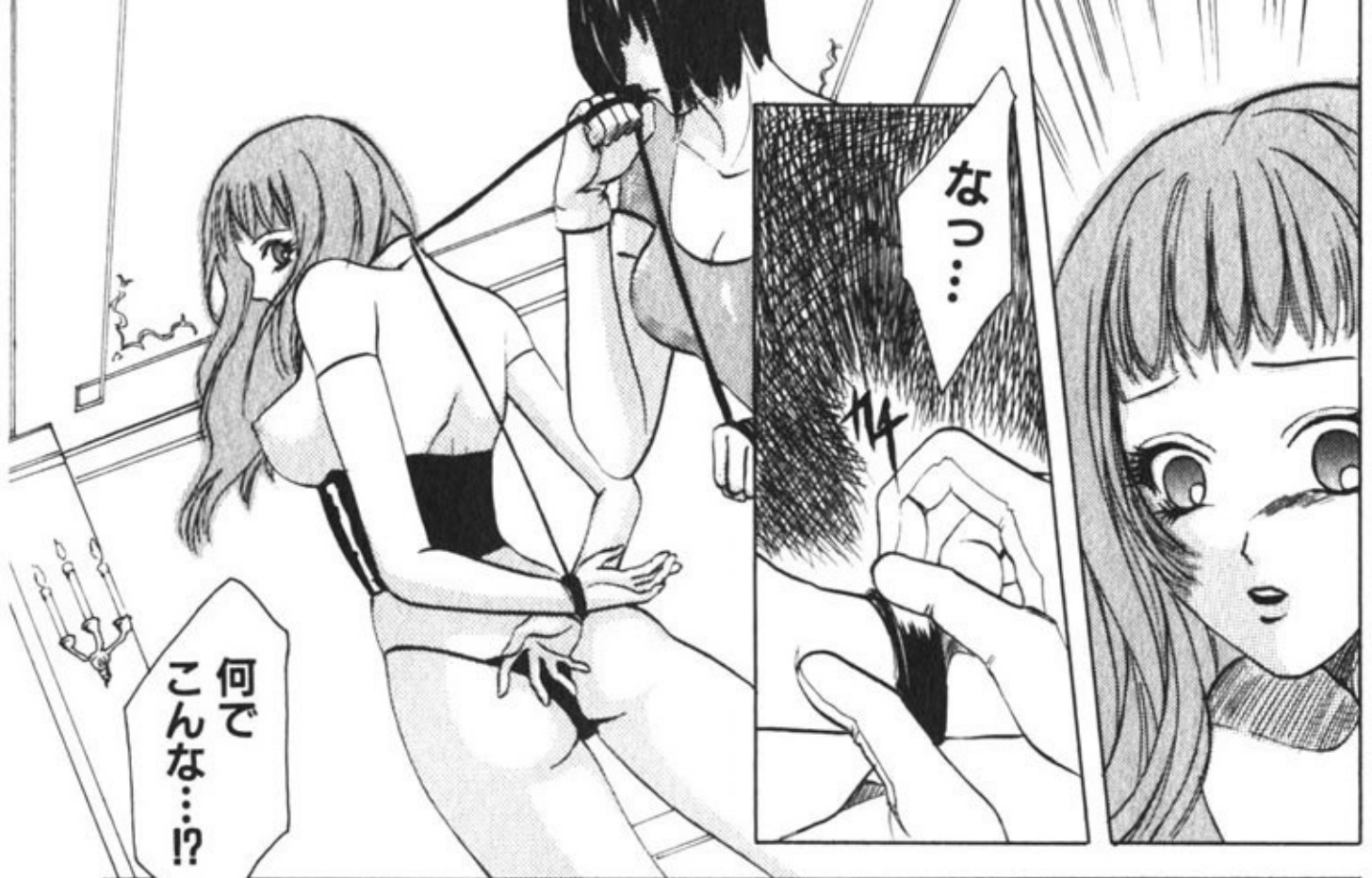


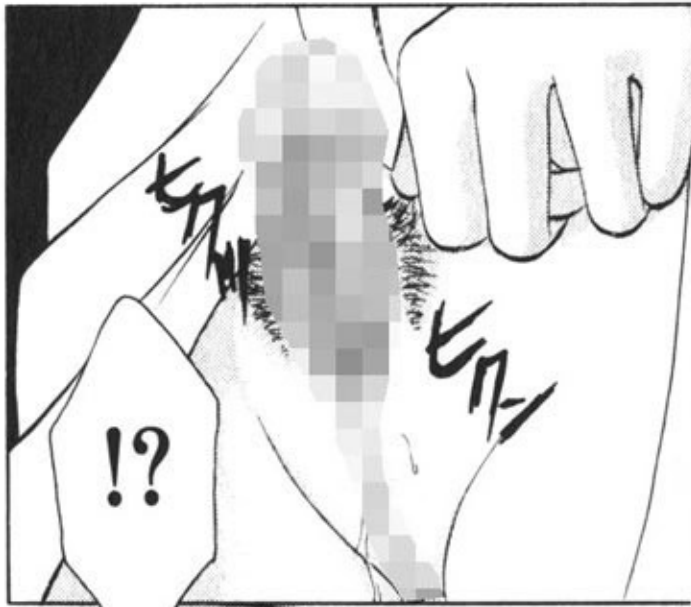
はま
本当に上手に
なられましたわね
—奥様も…
きっとお喜びに
なりますわ…

は…



あの人の為に…





!?

そのおびえた瞳…
ぞくぞくするわ

さあ
もっと私を
楽しませて…

アッ…



— 驚いたかしら？
ふふ… 素敵でしょ この体

どう？
美しいでしょう

私のこの瞳と同じ様に
男女の性がまざり
あった身体…

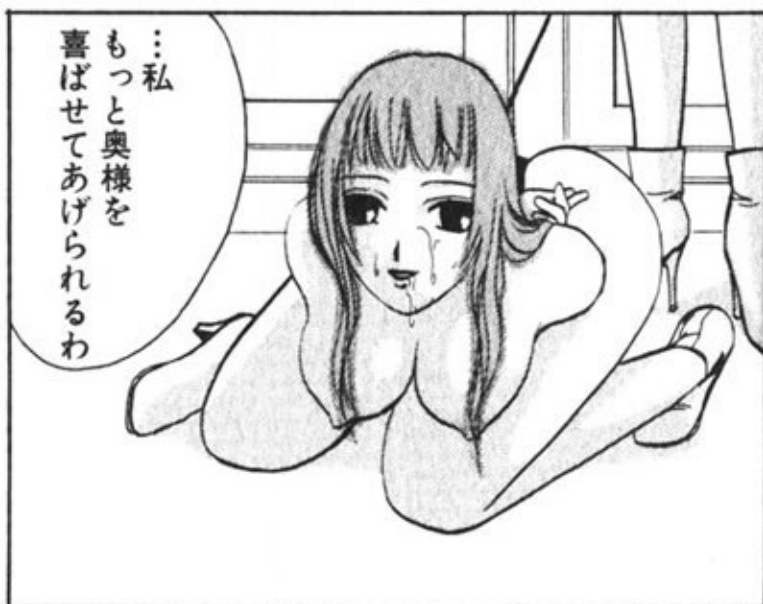
さあ口を
開けなさい

ん…

ん…







私
もつと奥様を
喜ばせてあげられるわ



奥様
それで満足ですか？



その娘だけ
残してお前たちは
部屋を出なさい



ねえ 奥様

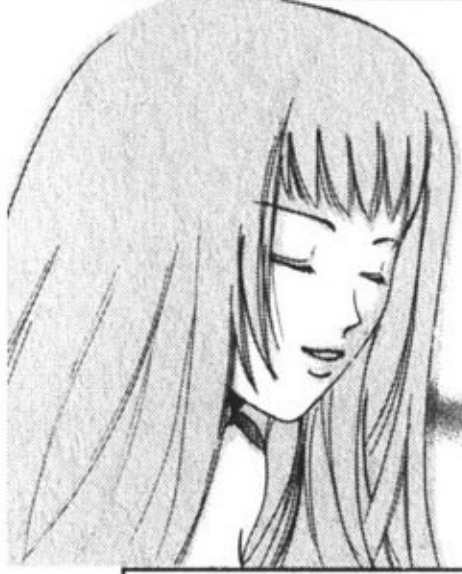
にゅにゅ



おや...

さあ

どうやって
私を満足させて
くれるのかしら？



「—させて
くれるのかしら？」

ほあ

ほあ



す
す

「させて頂けますか」の
間違いでしょう？







ひあつ…

あ



あああつ



は…



ああ

可愛そうに…っ

—今まで誰も
こんなふうにして
くれなかったの？



はあつ

はあ

ああ…

ゴウッ

ビュッ

ゴウッ

ゴウッ



—あの時から

もういいわ
お疲れ様

—ああ
かれんは残って

あなたの瞳を
見たその時から

…はい

解っていたの

貴女は私の
パートナーだって

今日はどのよう
にいたしまし
ょうか
「奥様」?

THE END



哀玩具

その一 千秋



どきどき

私本当に…

さあ お入り
今日からここが
君の家だよ



夢みたいだわ

本当にこんなに素敵な
お屋敷で働けるん
ですね…



…屋敷の者は
皆気のいい人ばかり
だから
君もきつとすぐに
慣れるよ



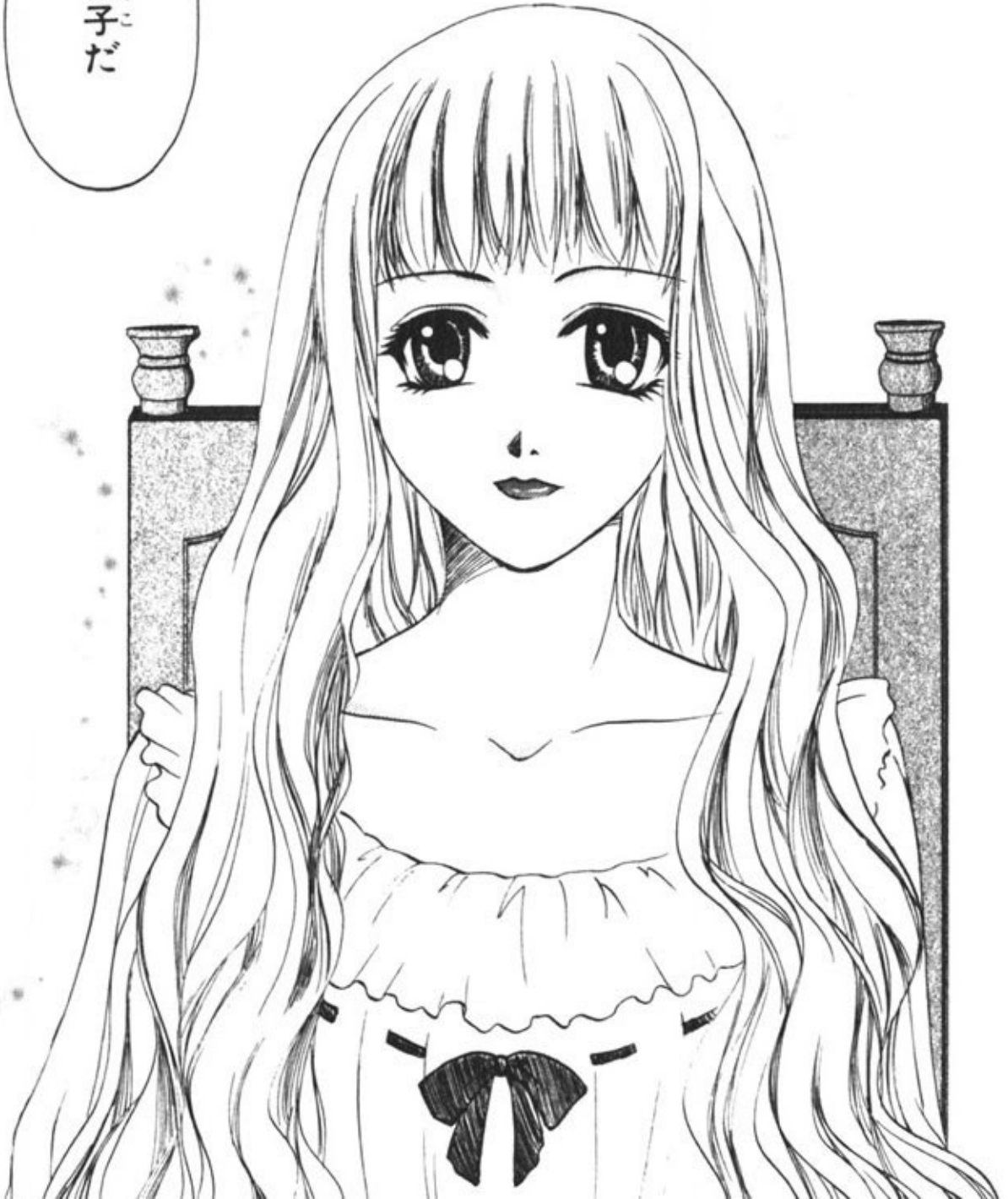
紹介しよう

桜子^{さくらこ}だ



君には妹の世話を
してもらおうよ

——…真つ白い御人形？
ああ違うわ…女の子だ





あなたが千秋？

お兄さまが
つれて来た人ね

なんて綺麗な
女の子なの…



千秋
返事は？

は

!



あつああ
済みません
旦那様…

よつよろしく
お願いします

かば

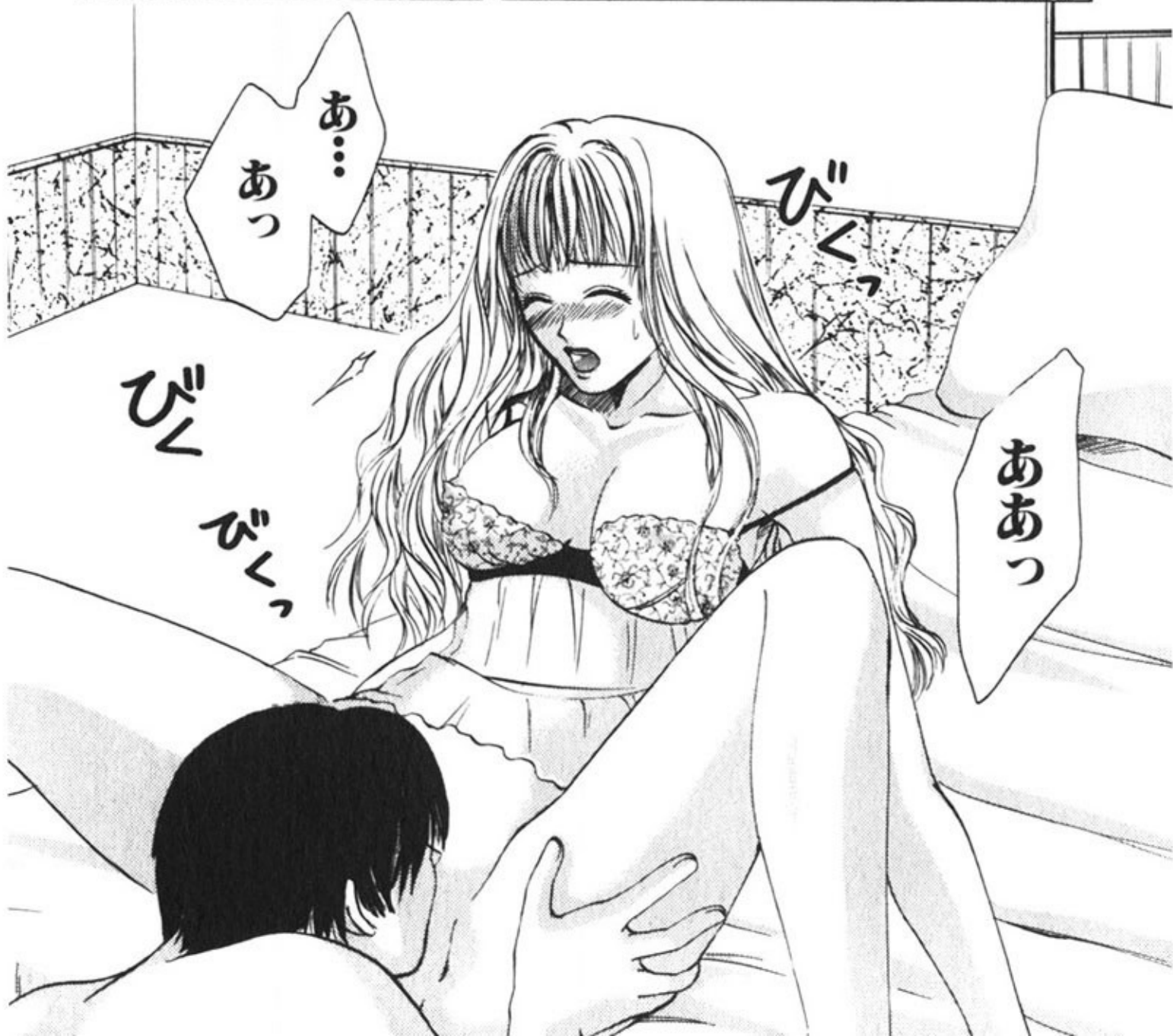


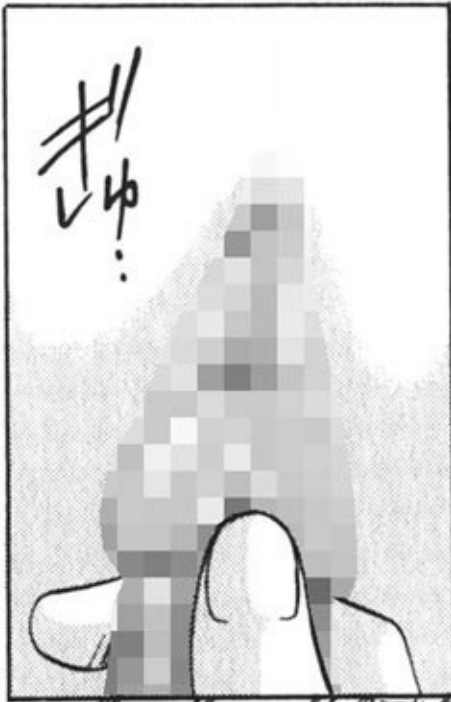
手を抜いちやだめよ
お兄様…

ふふ…

もっと一生懸命…
舐めなさい…

うふふ…





しゅっ！



あ…兄様
いつものように…っ

くっ…

はや…っ



気持ち
いいかい？
桜子…っ

(はっ)

(はっ)

はっ





あ…
お兄様

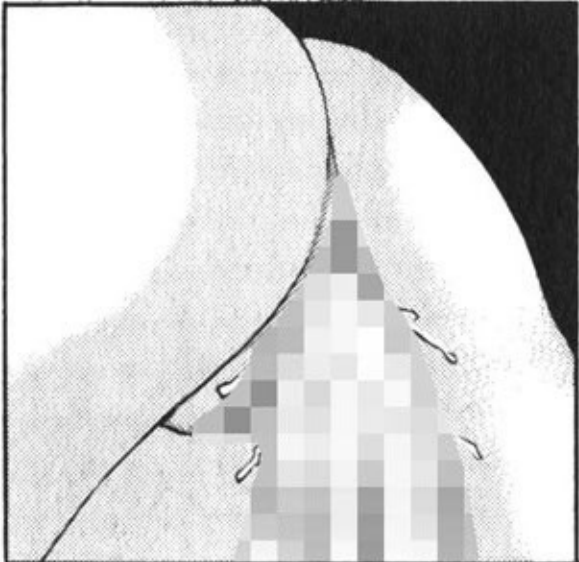


ああん

ぽん、

あっ
あっ

ぽん、



なんてこと…!?
兄妹でそんな…

あ…

はあんっ







……僕は
桜子が可愛い



—見たんだろう？
僕たちのコト

……え？



彼女を愛して
いるんだ

だから君が見た
ことは
誰にも言わないで
くれないか



あああとで
僕の部屋において
いいものを…
あげるから

…夢じゃなかったの…？

—はい
旦那様

…お入り

あの…

旦那様
私…

昨夜のことなら
もういいんだ

それより…
君にプレゼントが
ある

旦那様
千秋です

フイ

コン





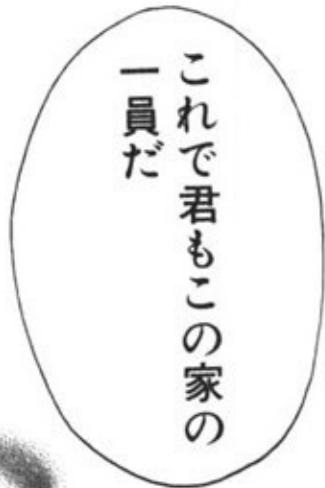
目をとじて
ごらん



…!
!?

いいよ
目をあけて…

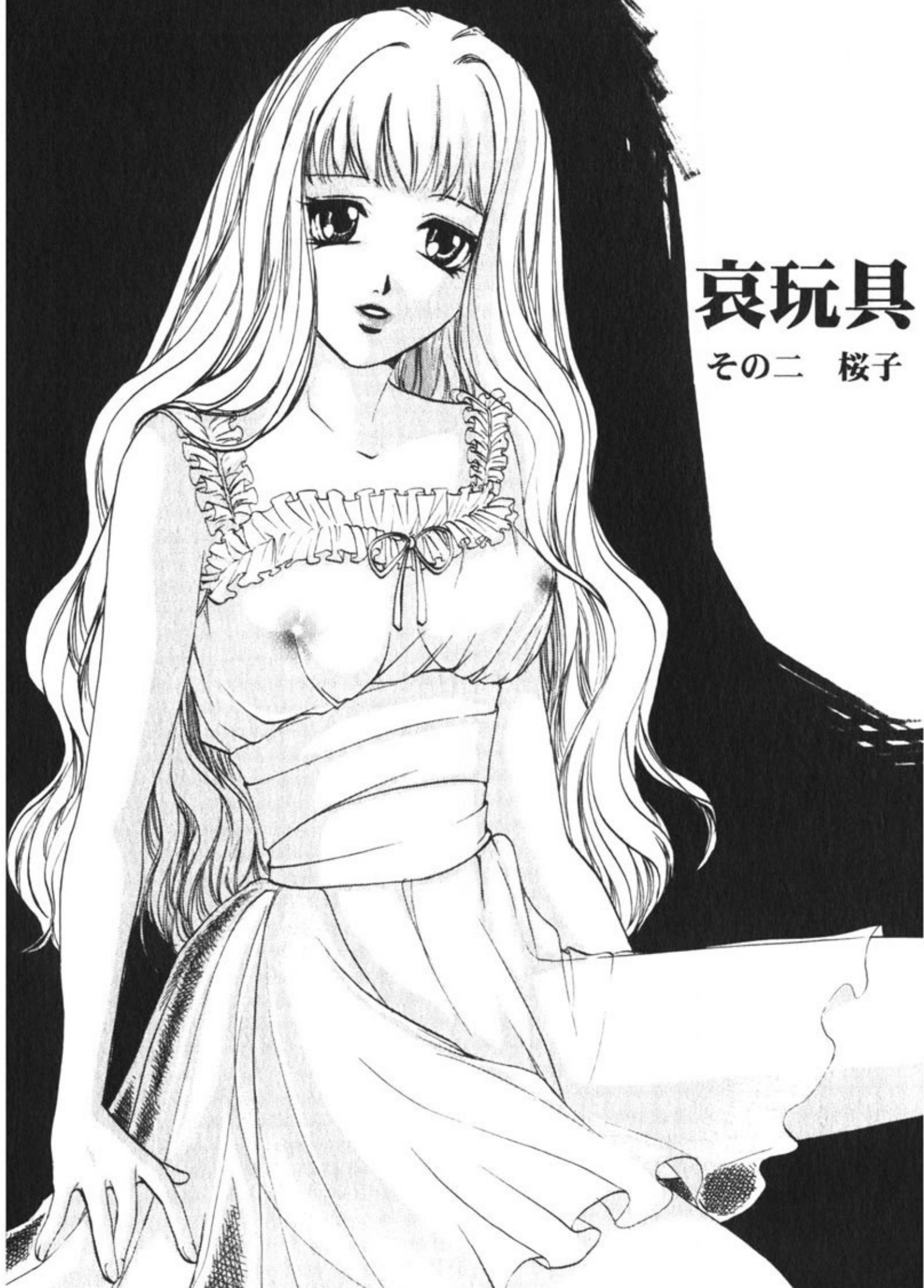
キヤリ…



これで君もこの家の
一員だ



君の名札だよ



哀玩具

その二 桜子



ああ 旦那様
旦那様っ



シヤク...

あ...っ



あ

あ



あ... あ

あっ



あああ

ぐんぐん

はぁ
ぬびん

——…千秋
僕はこれから
少し出かけるので
桜子のことをたのむよ





旦那様は時折
私を抱く

まるで玩具のように



—はい

旦那様…



そこには愛など存在しない



わかっていたことだ
私はメイドなのだから

桜子様
お召しかえです



千秋…



今日もお兄様は
お出かけなの？
——寂しいわ…

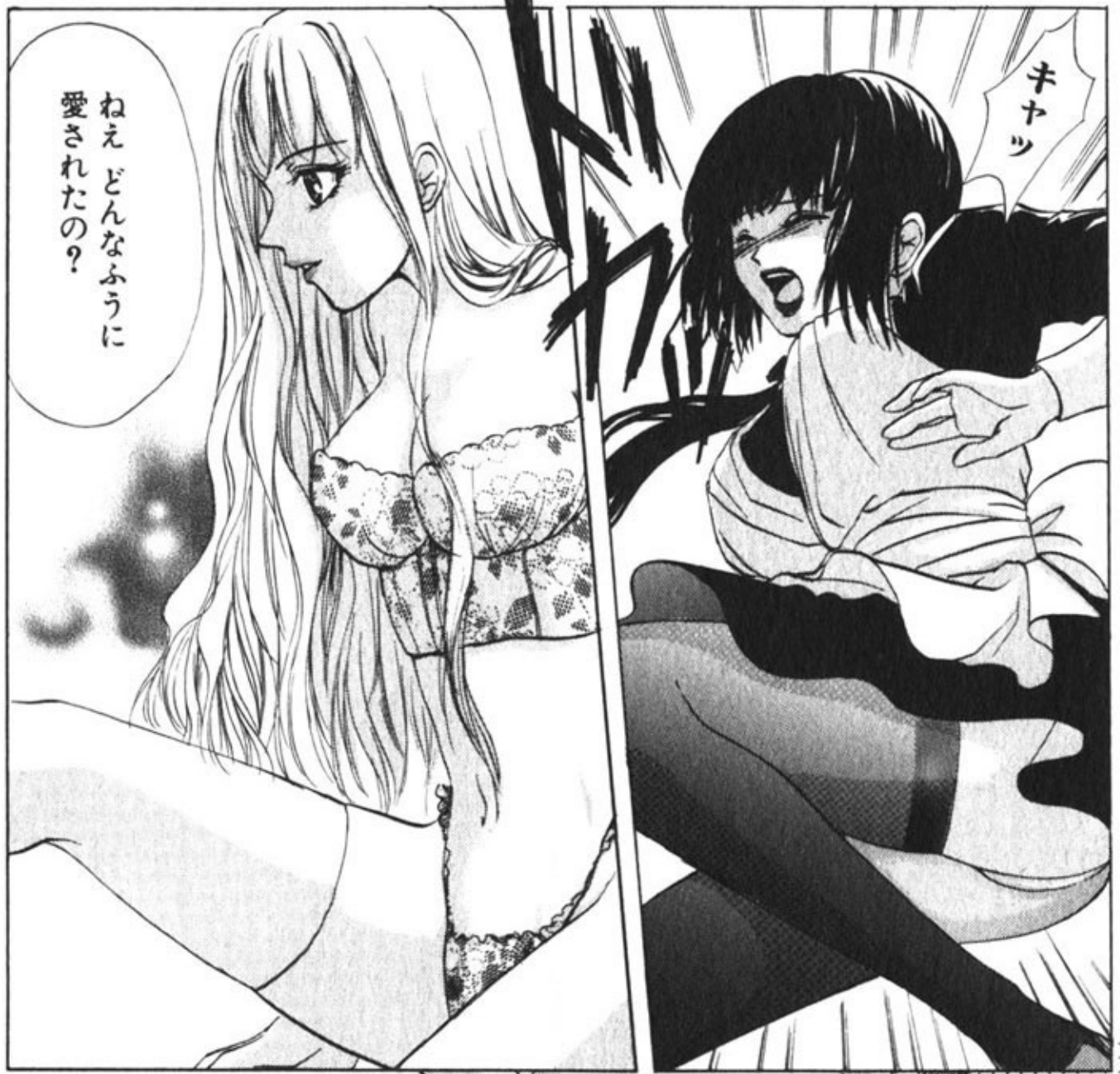
お前も
寂しいでしょう？



知ってるわよ
千秋…

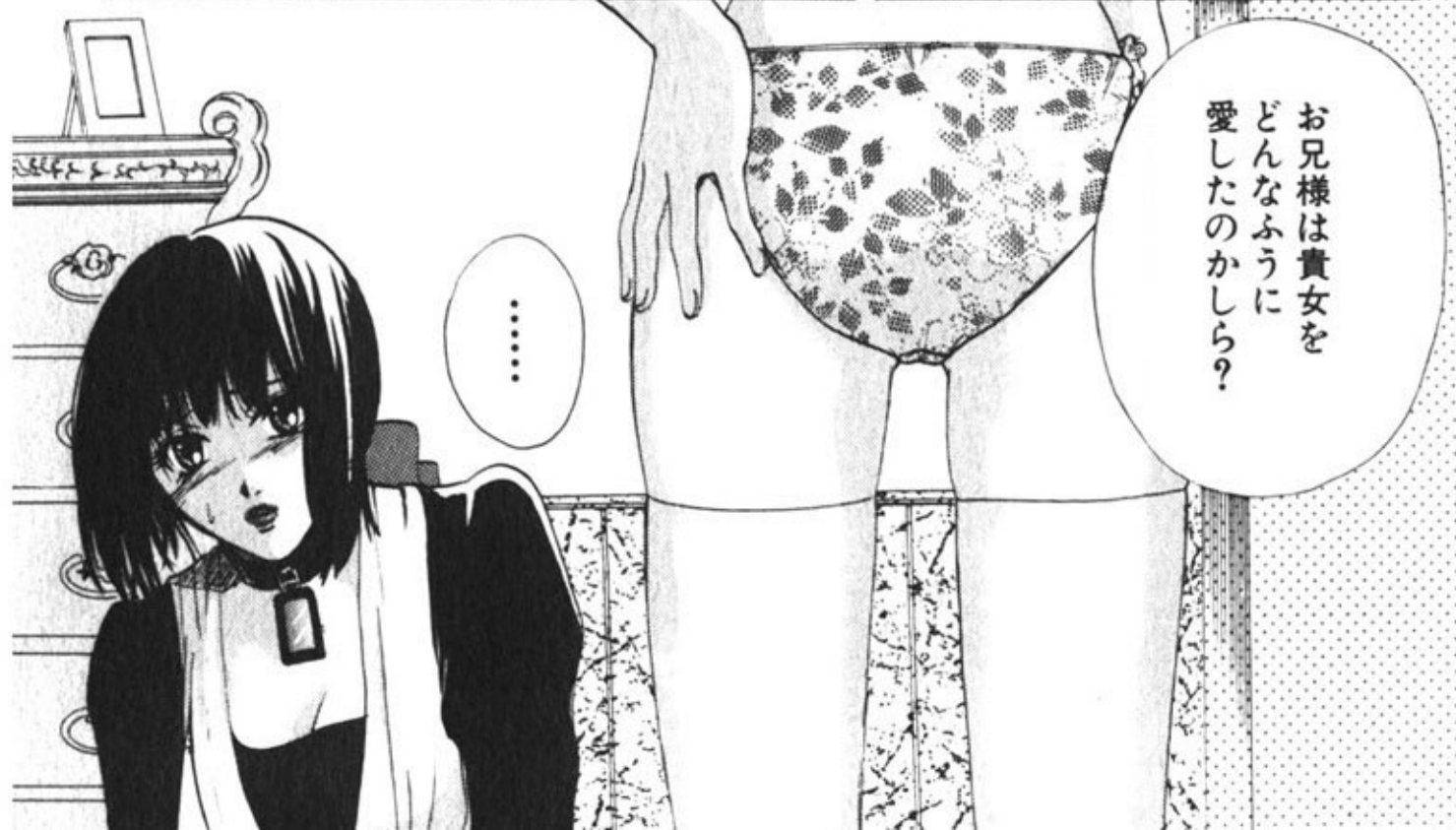


あなた
お兄様に
愛された
でしょう？



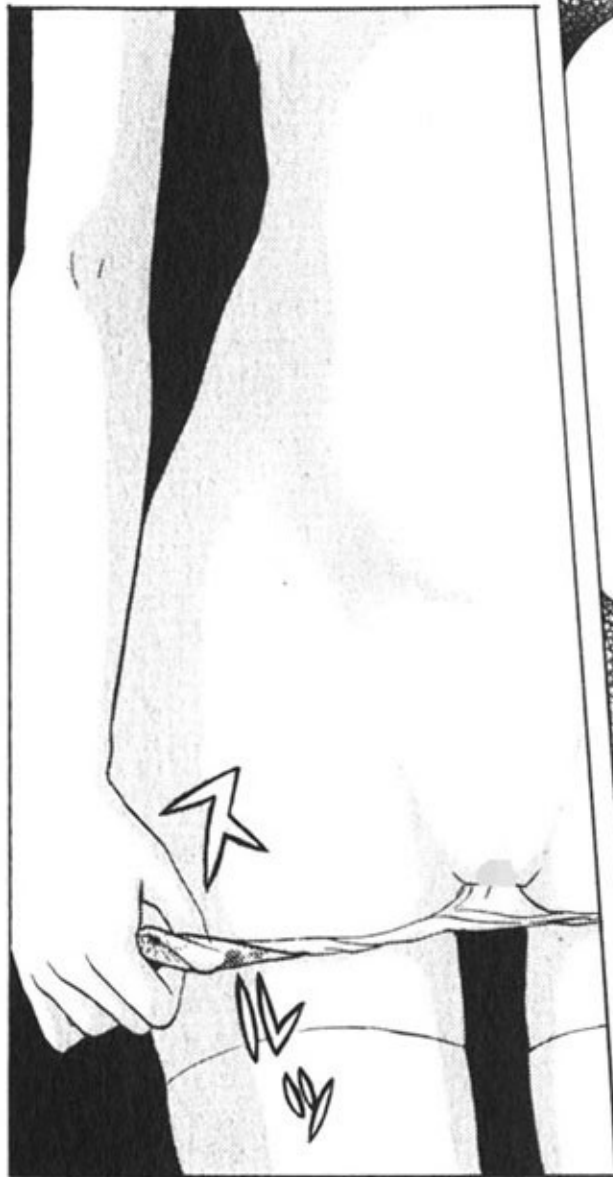
ねえ どんなふう
に 愛されたの？

キヤッ



お兄様は貴女を
どんなふう
に 愛したのかしら？

...



お前がされたように
私を愛してごらん



千秋

さあ







はあ

あ…千秋…

もつと
欲しいわ…

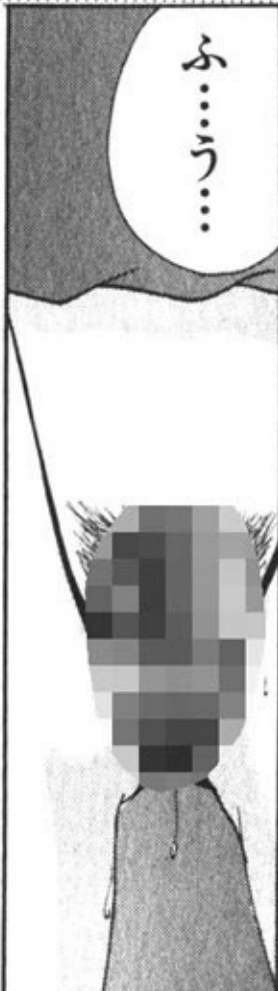
くちゅ…
くちゅ…

ビ
ミ
ツ
ク
ン

んんっ…

んんっ…

んんっ…





…いれますよ



!!





ああ

!

ツヤ
ア
ア
ア





…うふふ

良かったわ千秋



わかっていたことだ
私はこの兄妹の
玩具なのだ

—ありがとうございます
—桜子様…



—嫌な男よ!



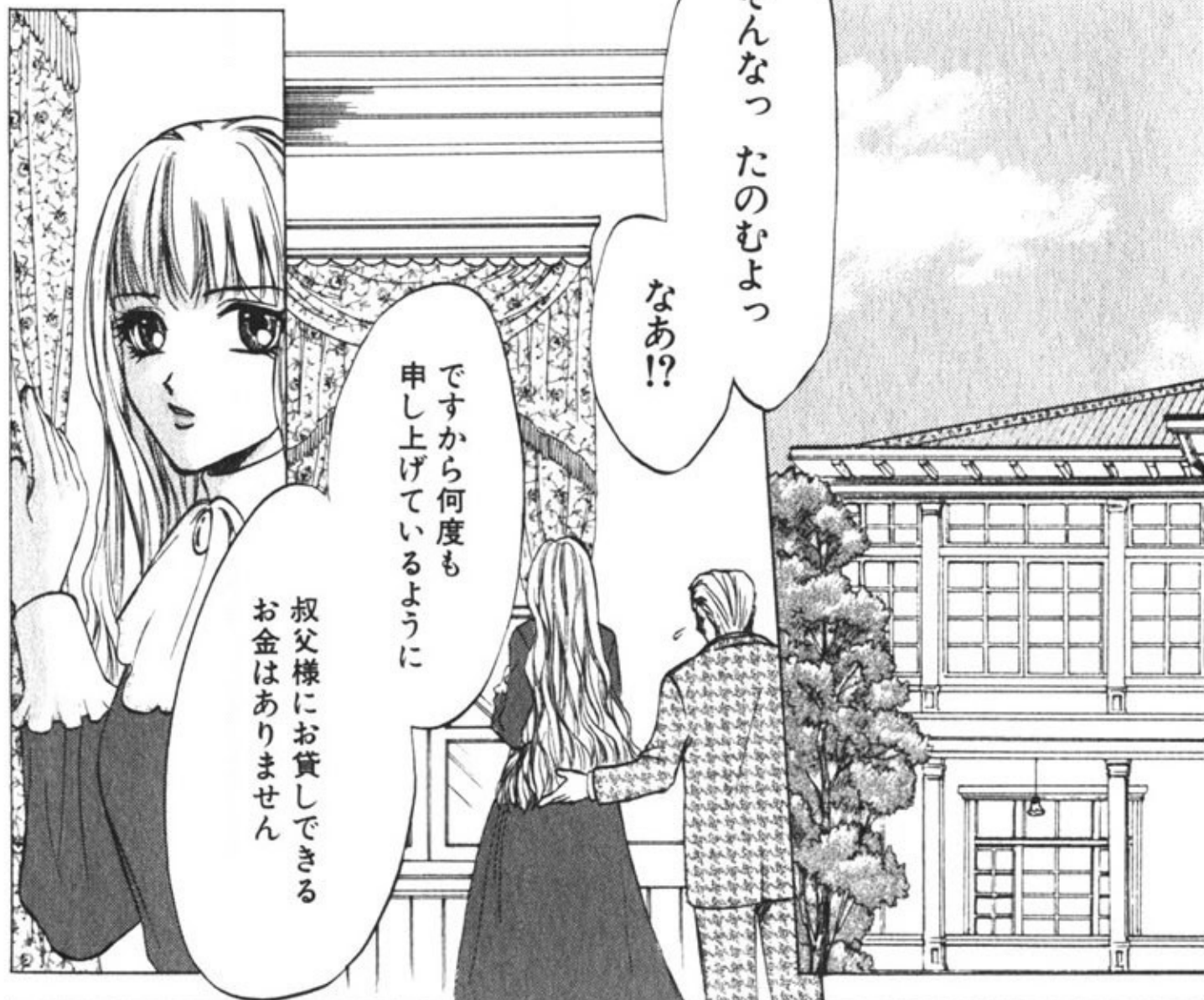
—叔父よ

…どなたが?



—ああ そうだわ
今日はお客様が
来る予定なの

用意しておいて



そんなったのむよっ

なあ!?

ですから何度も
申し上げているように

叔父様にお貸しできる
お金はありません

お引きとり
下さいな



千秋!
お寄様をお送りして

私は自室で
休むわ…

……

ダン



俺にだって財産を使う
権利はあるんだぞ!?

ちくしょう
いまましい
女ギツネめ…!



—何の為に
お前をここにやったか
わかってるな千秋

どんなことをしても
アイツ等をおどすネタを
見つけるんだ



ええ
わかっているわ
お父様…

TO BE CONTINUED



哀玩具

その三 「玩具」

小さい頃 私は「父親」という
ものを知らなかった



「父親」とは「大きな男の人」
だと聞いて

では「母」のもとに来る
「大きな男」は皆「父親」
なのだと思っていた



少し大きくなって
すぐにわかった



それは「父親」なんか
ではなかったこと

そして…



あたしはただの
玩具なんだってこと







あんな男でも私には
たった一人の肉親……

私をつなぐ鎖なのだ





ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ



ヒュッ
ヒュッ



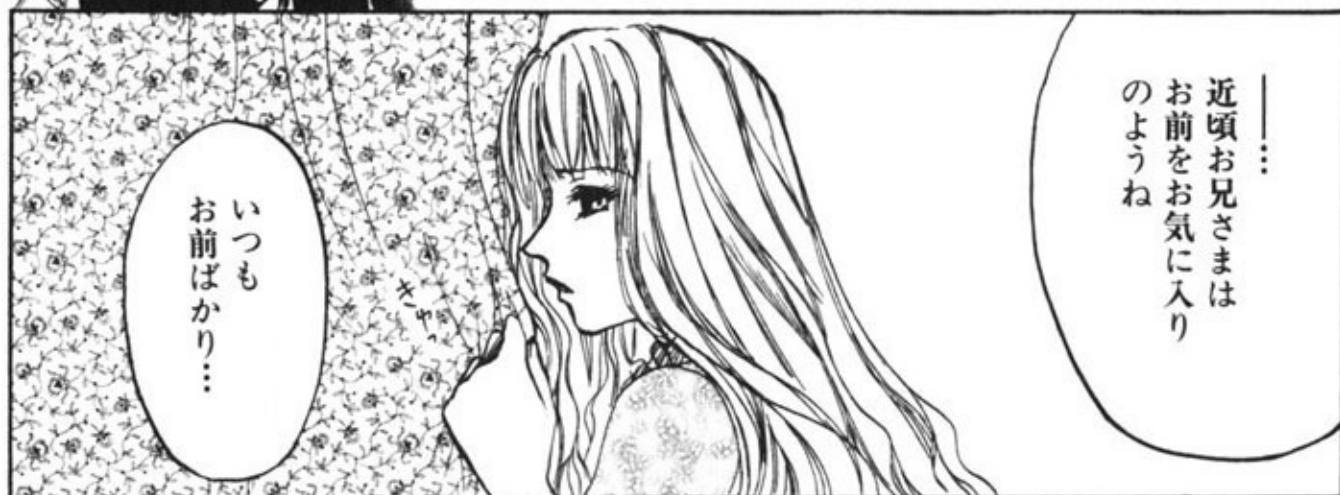
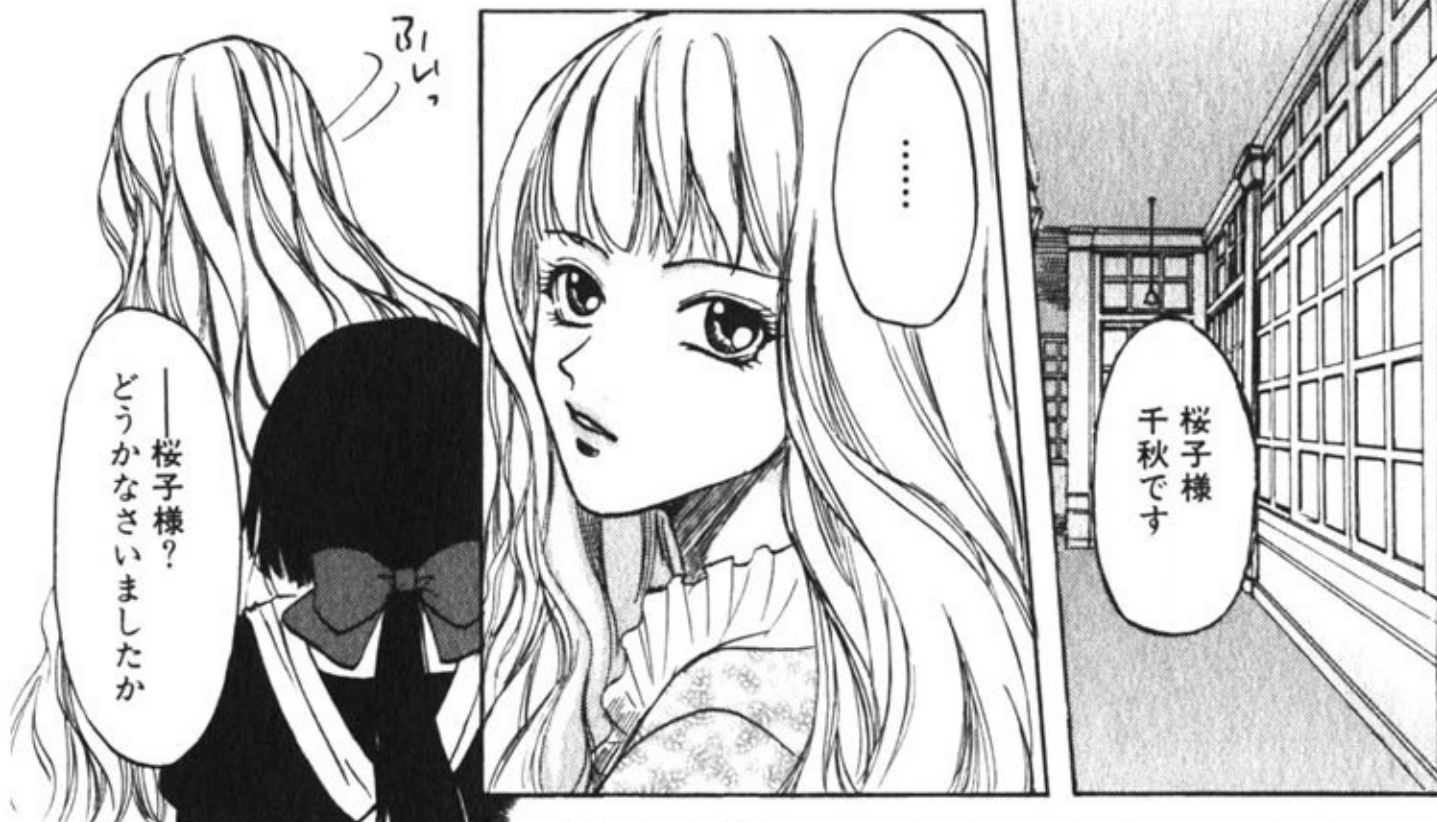
千秋
——もういいよ

御苦労
だったね



——はい

早く桜子の所へ
行ってやってくれ



知ってるのよ千秋
お前叔父さまの
愛人なんですって？

あの男は
優しくしてくれるの？

大人しいふりして
本当は淫売なのね

どうやって叔父を
たらし込んだのかしら？

いつもしてくれるように
優しく舐めてあげたの？





大丈夫よ千秋
お前がおとなしく
していればお兄様には
言わないわ

ねえ？

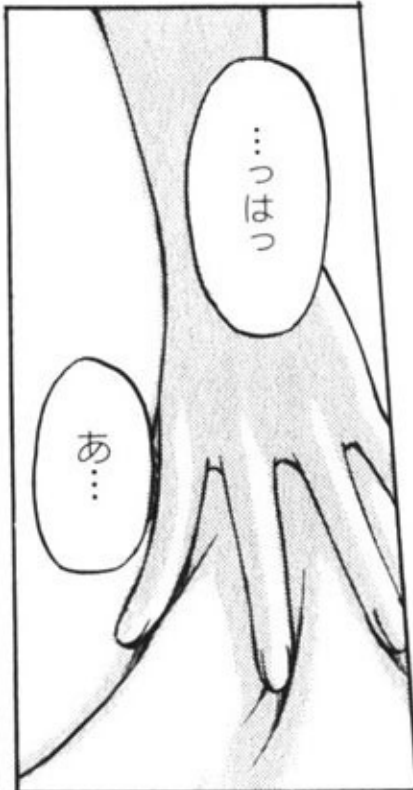


ただの御人形じゃ
なかったのね

お前は
私のモノよ

…お兄様には
近づかないで

あなたを甘く見て
いたようだよ桜子様



…っはっ

あ…



あなたもしよせん
ただのメス…

だったらもう
手段は選ばないわ





綺麗なカラダ
—愛される為のカラダ…

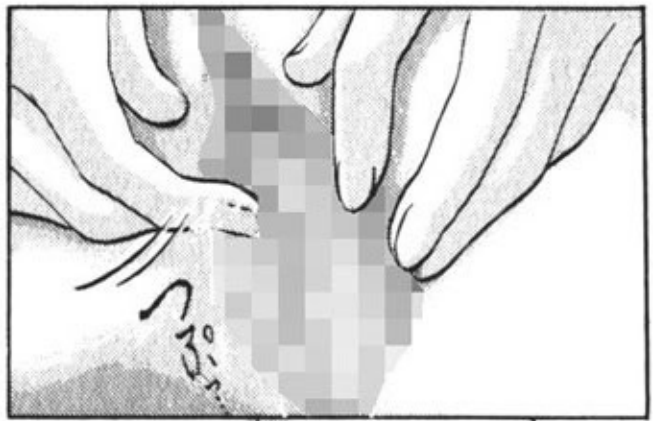


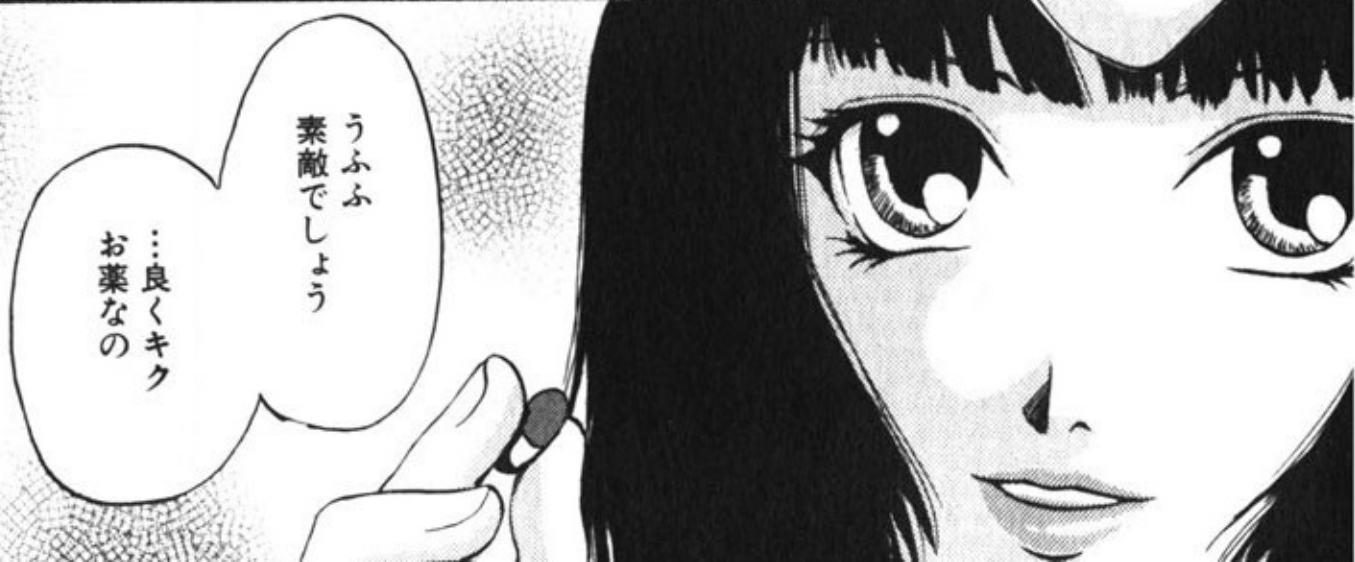
私が壊してあげる…



いいモノを
あげますわ

あなたを壊したら
旦那様はどんな顔
するかしら？





あっ

あっ

ああっ

あひっ

うふふ
素敵でしょう

…良くキク
お薬なの



ものすごい快感があるけれどイクことができないのよ

あ!

あっ

あっ

あぶっ...

びっ...

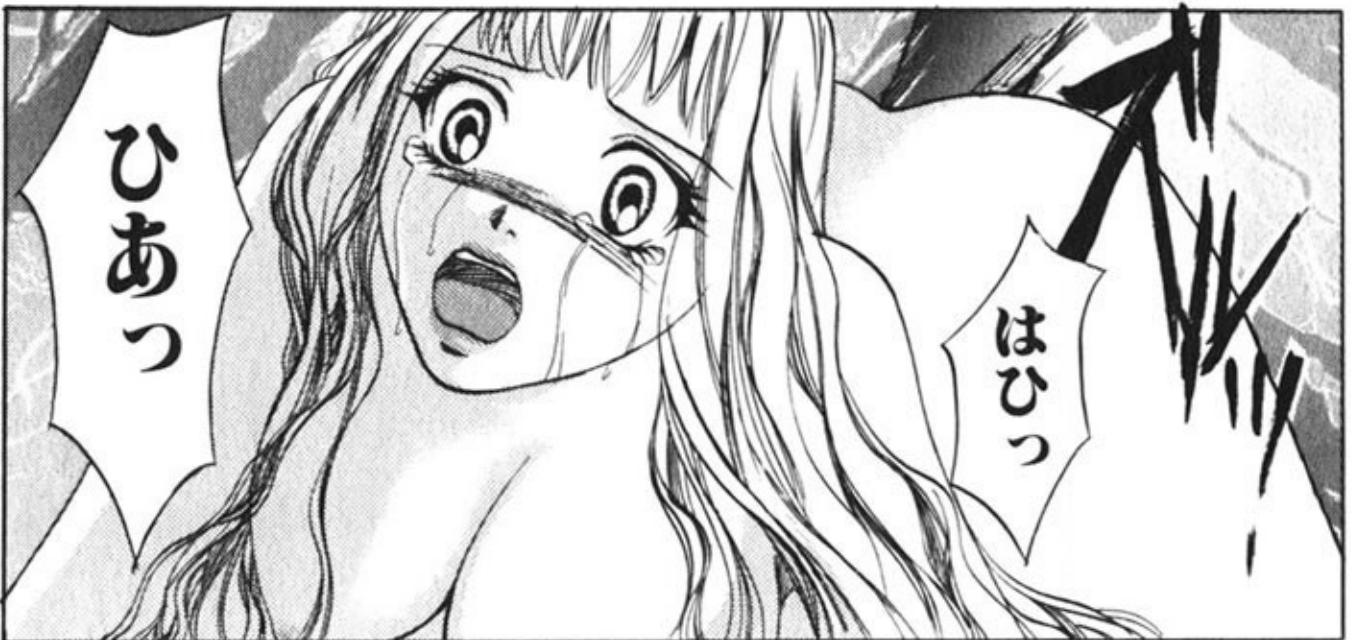


手伝ってあげるわ



はっ

どう?
つらいでしょう?
いつまでもイケなくなつて...



ひあっ

はひっ





…旦那様!?



— けっこう
ひどい事するね千秋



— あーあ
イツちやった…



壊れたんじゃ
しかたないね

— 桜子はけっこう
気に入ってたんだけどな…



え?

もういいや
…替わりは居る
からね

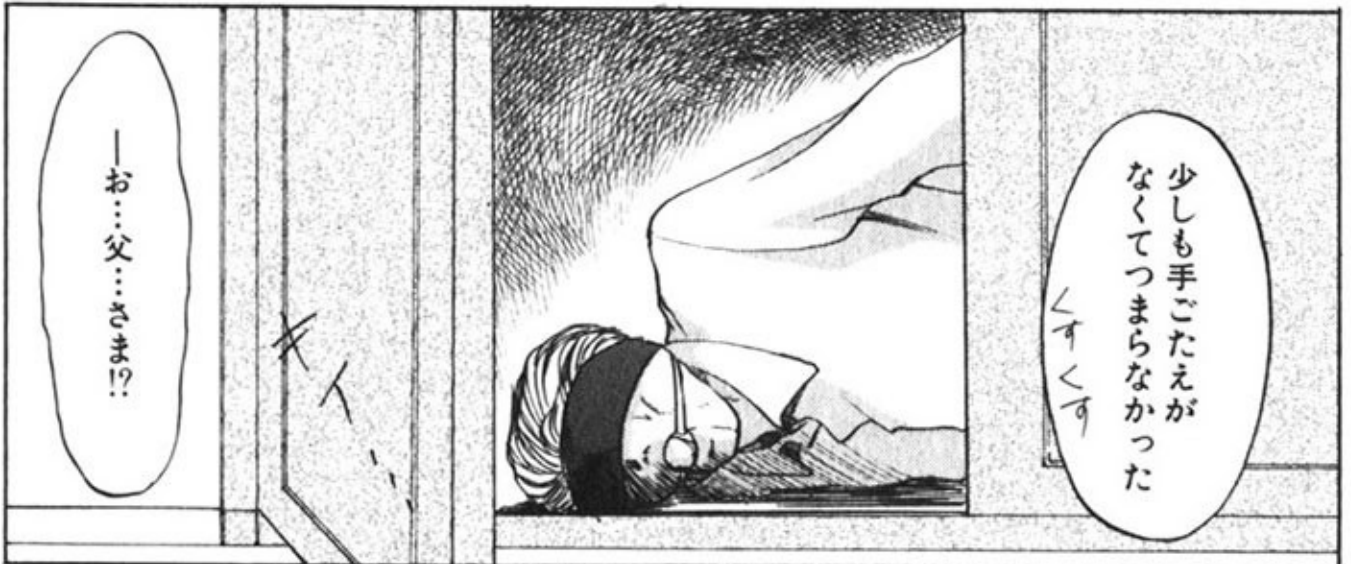


—あのどうしようもない叔父なんかよりもっと僕を楽しませてくれる



君みたいな女好きだよ千秋

欲望に忠実でひどく淫乱だ



—お…父…さま!!

少しも手ごたえがなくてつまらなかったくすくす



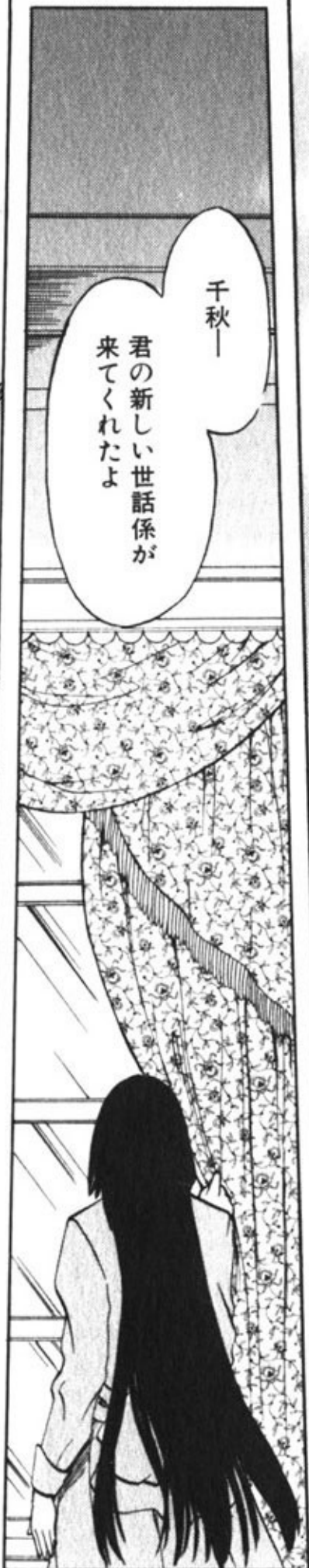
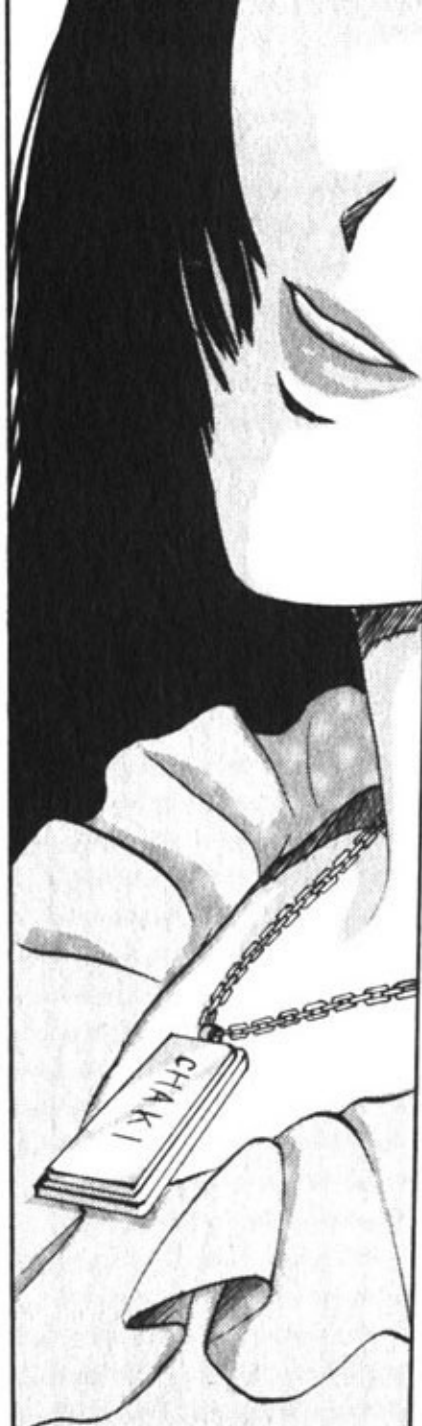
…逃げられないよ



君をつなぐものはもう何もないよ…

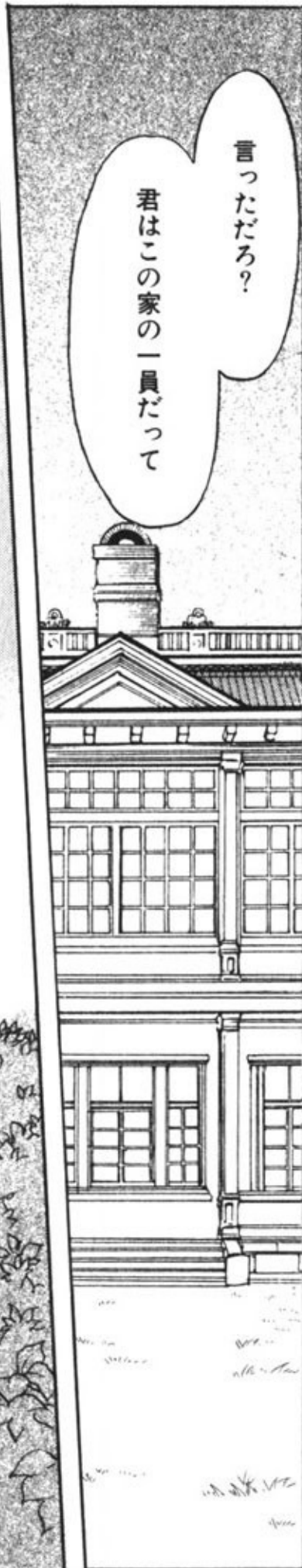
この首輪以外はね

千ヤリ…



千秋—
君の新しい世話係が
来てくれたよ

今行きますわ
お兄様—
…



言っただろ？
君はこの家の一員だって

THE END

狂愛

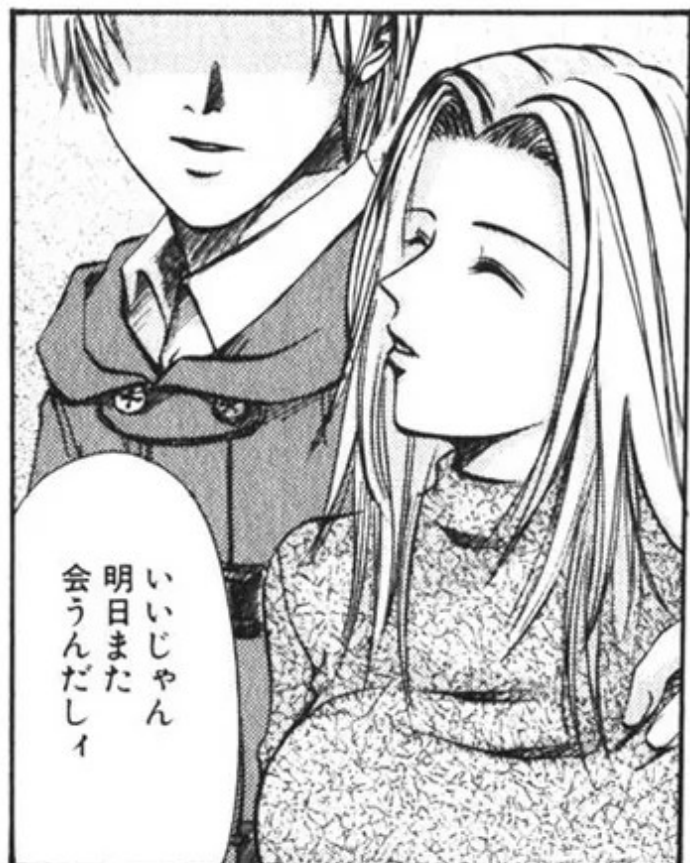




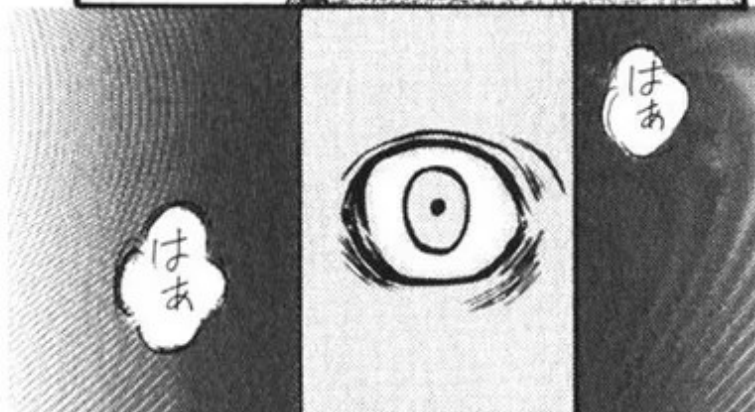
あっん
ああんっ







いいじゃん
明日また
会うんだし



はあ

はあ



あー
気にしないで
隣の浪人生よ

何だよアレ
お前の知り合い
かよ?

キモワッ



ダメ
今晩は用事が
あるの

おとなしく
帰ってよね



見たーあいつ

俺を見て笑った……



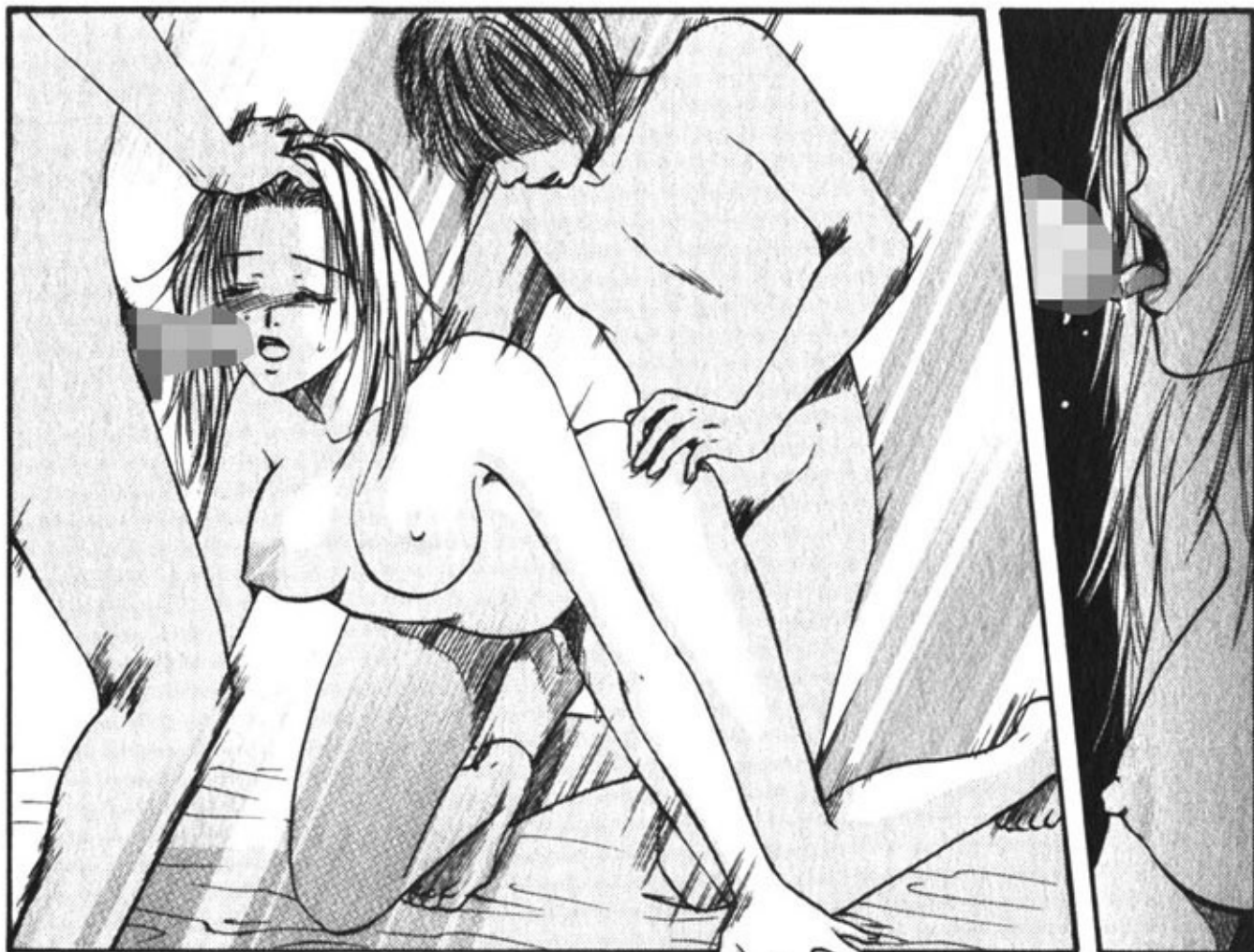
はーはー
はーはー
んっ

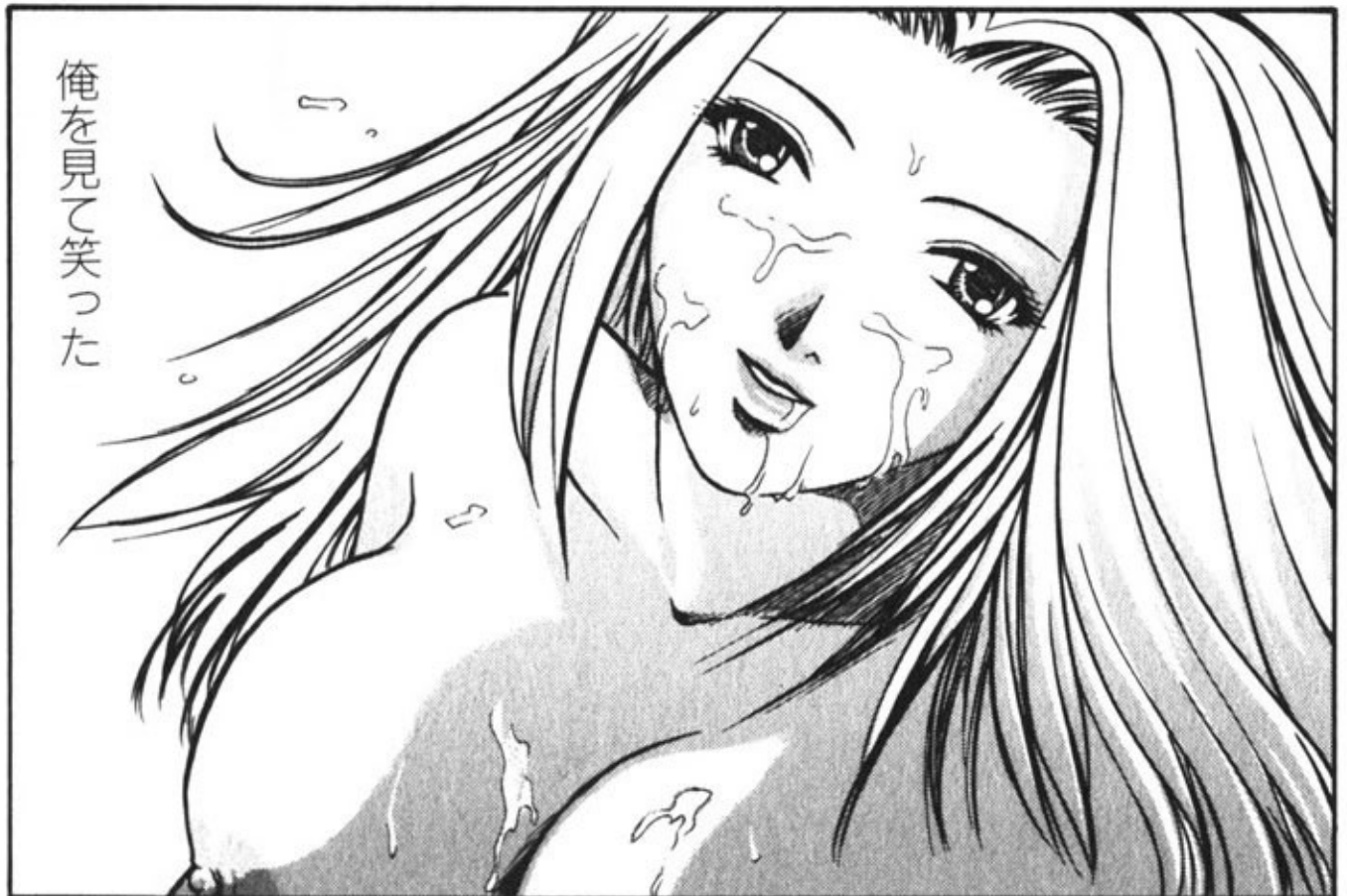


いっつも覗見
してんのよ



あの時みたい





俺を見て笑った



あの瞳で

視見なんかして
何考えてんのよ

たまってんじや
ないの!!



きつと……っ

きつとまた笑うんだ

俺を馬鹿にして
笑うんだ……

ほ



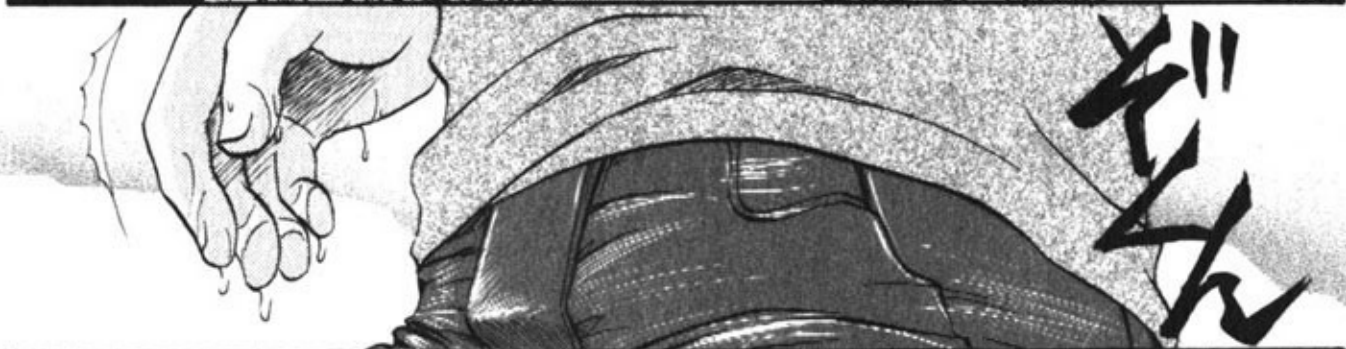
ポタ

ガッ
ポタ
ポタ



この
ヘンタイ

俺をさげすむやつに
見下して



ぞんぞん



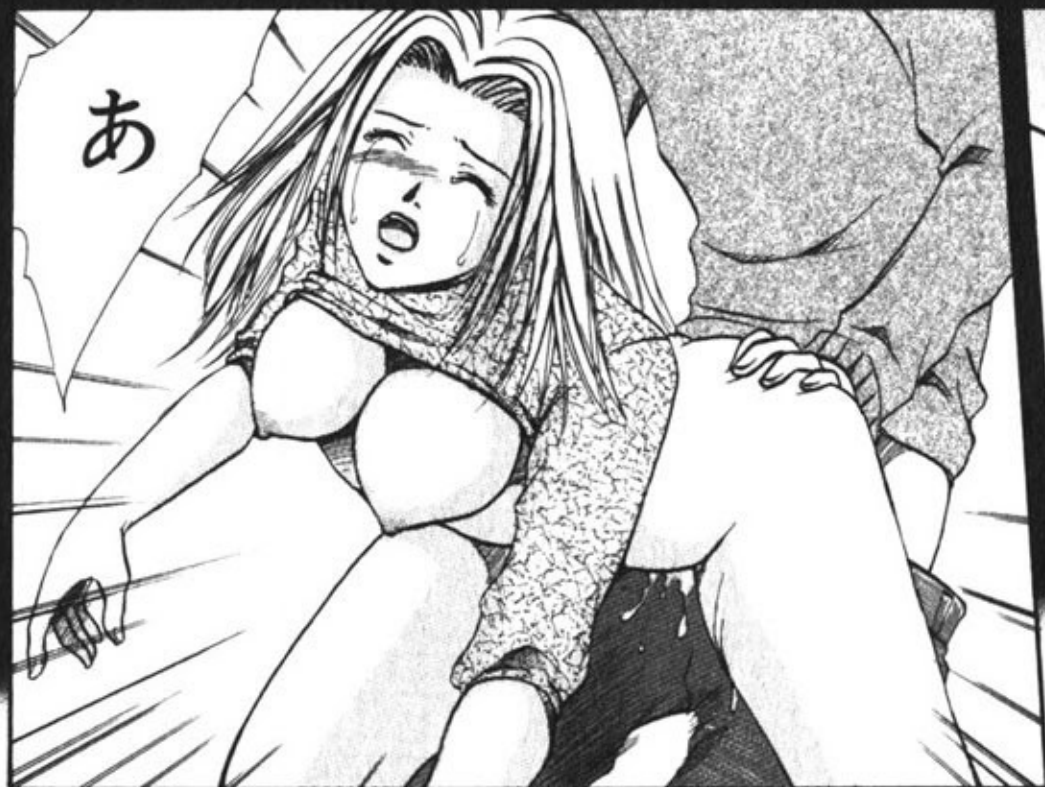
あ……

キィッ

笑うんだ







あ



ぐ
にっ



あんっ

ふっ

ああっ



あっ
はっ

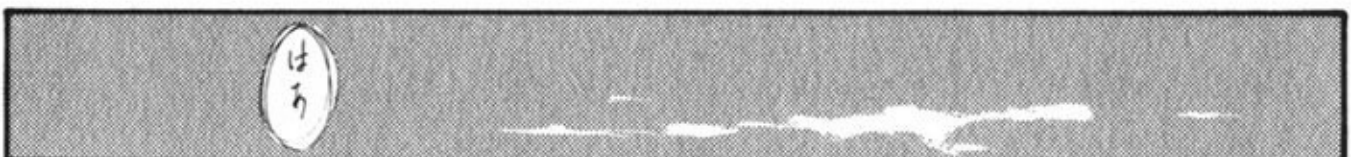
はっ…
どっどっ?
「女」の味はっ



はあ

はあ

はあ



はあ



見るだけだ…

はあ

大丈夫

はあっ

少し覗くだけ…

はあっ

はっ

キッ

ほんの少し—

ハ？

ハ？

ハ？

ああ…

待ってたのよ…

それとも…

これは夢か？

THE END

なつかしい夢を見た日



気がつくとその建物の前に
立っていた――



そこは昔

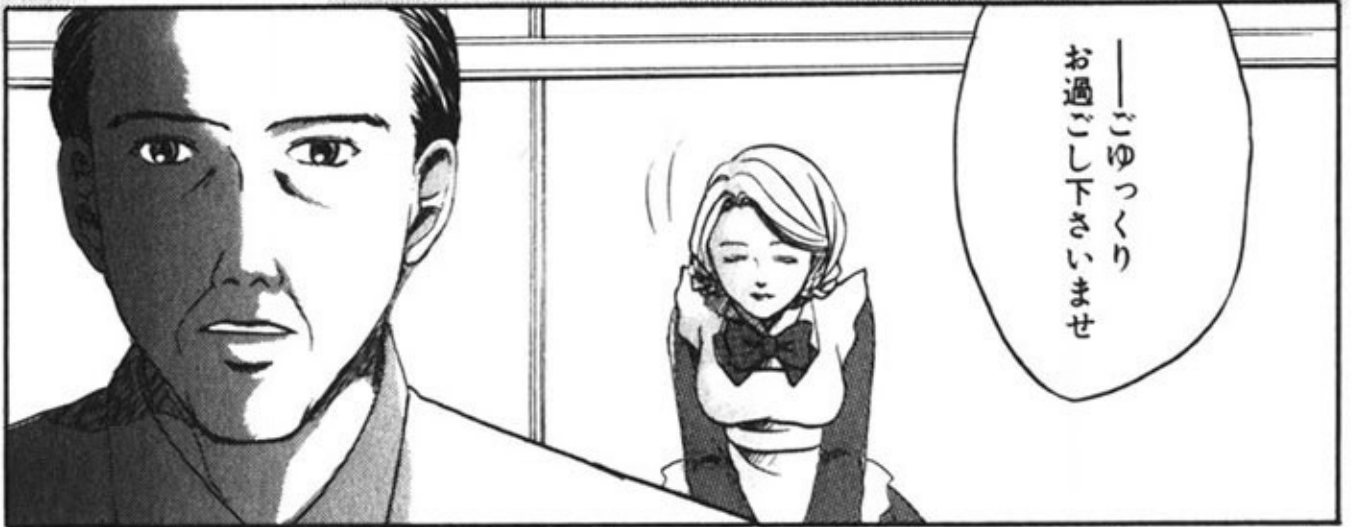
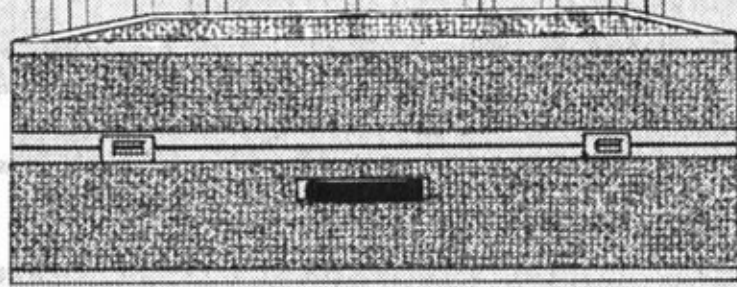
妻と泊まったホテルだった



時の無いホテル



101

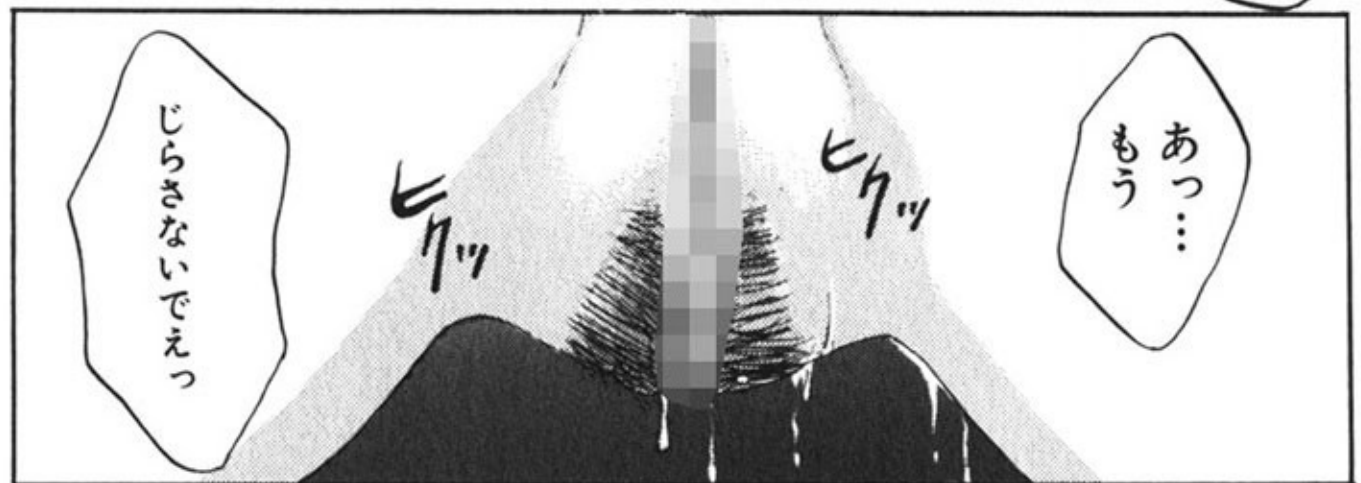
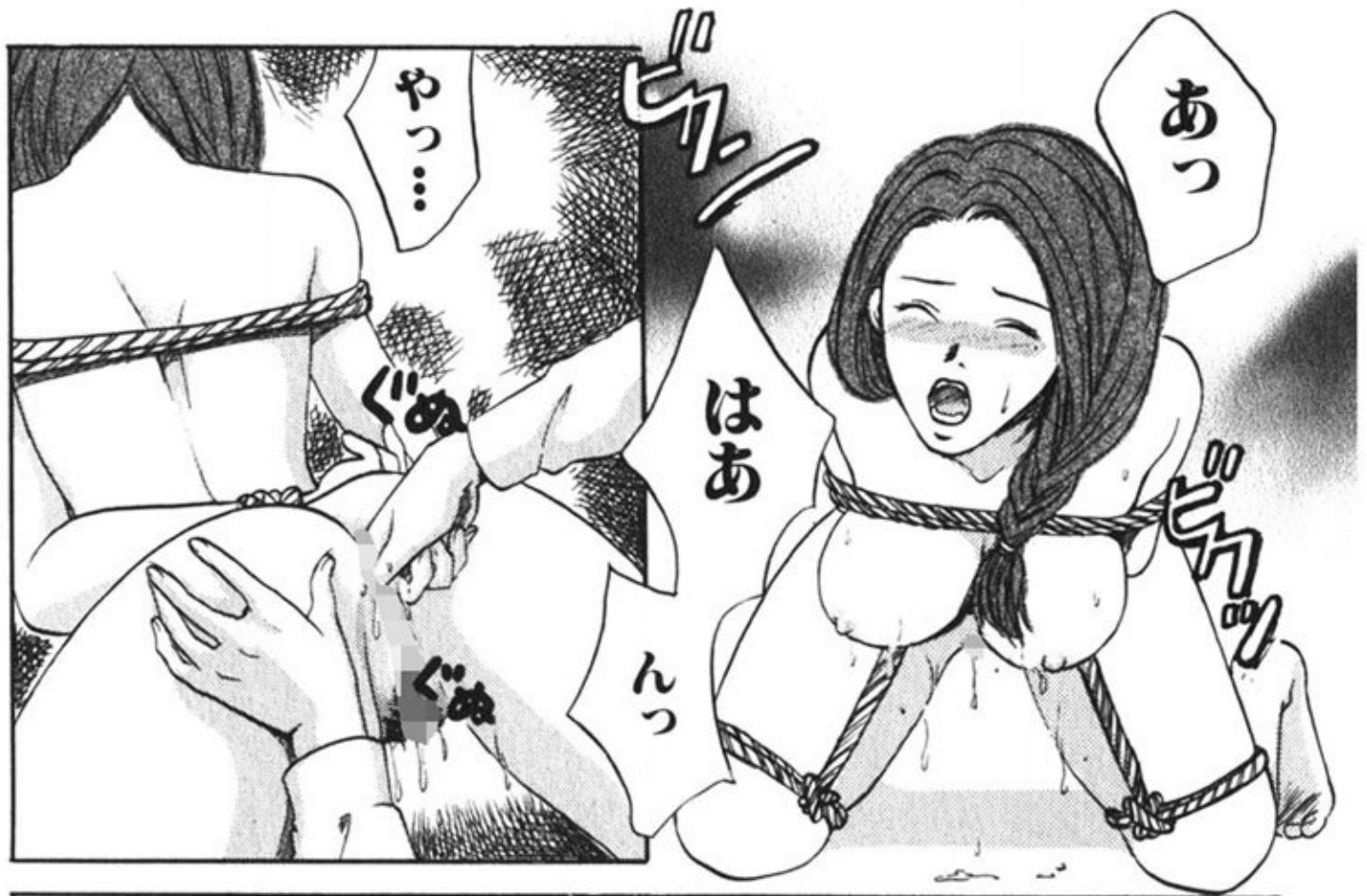


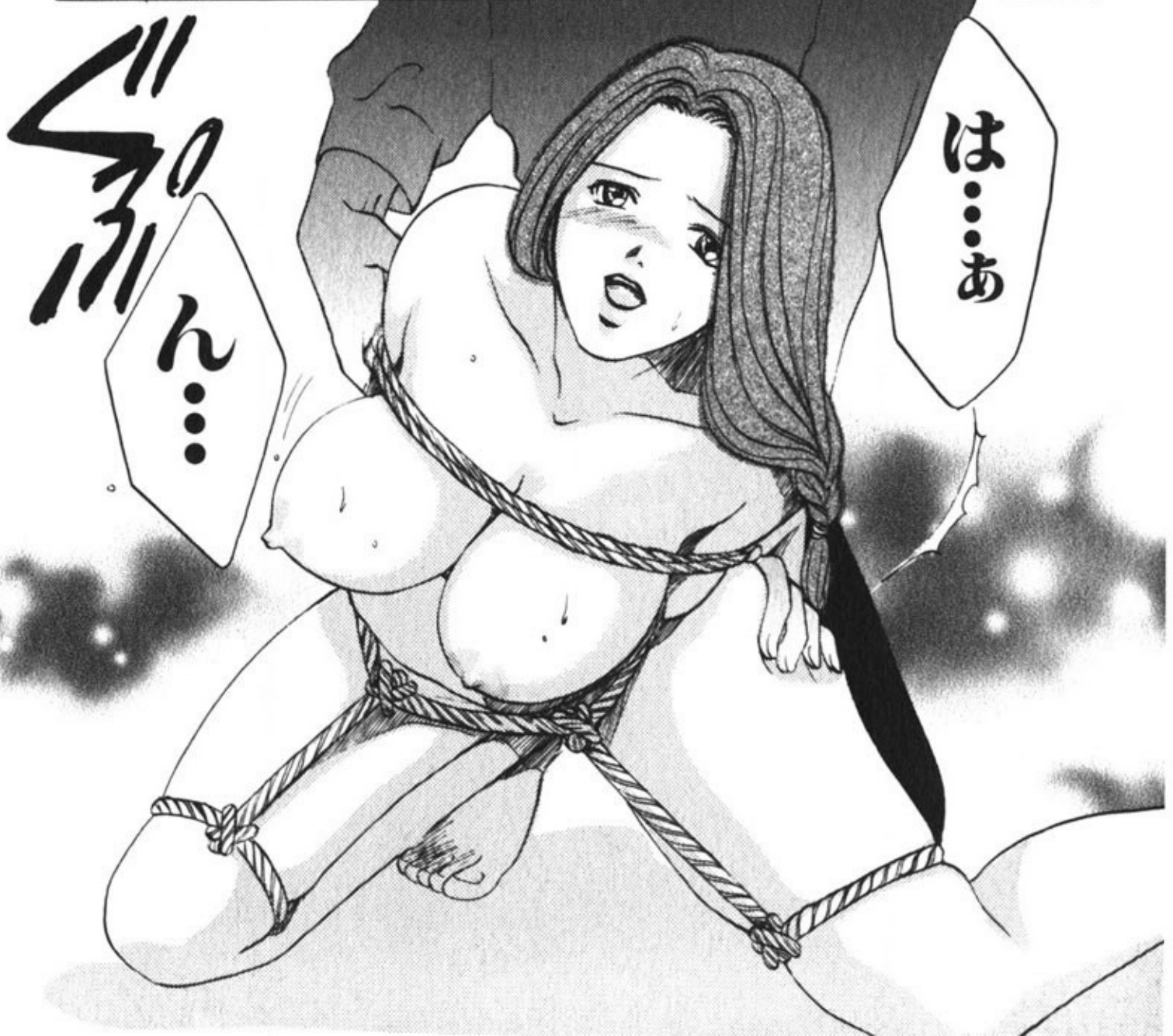
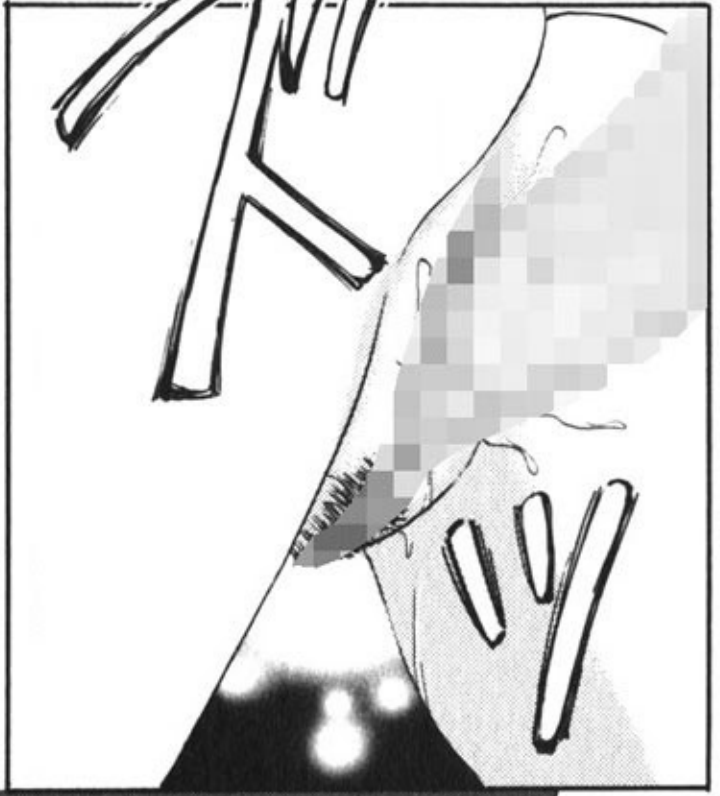


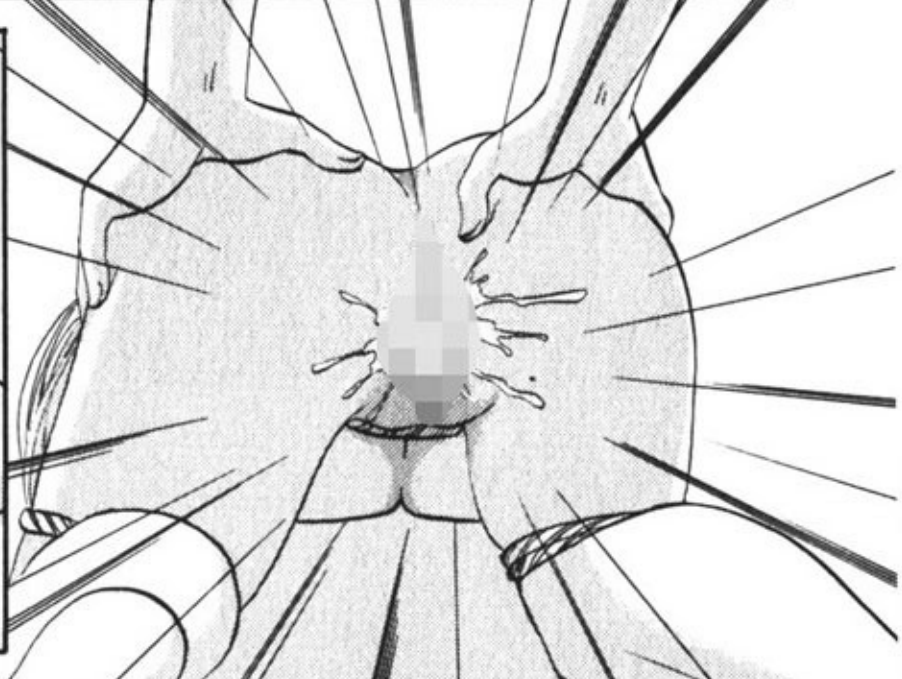
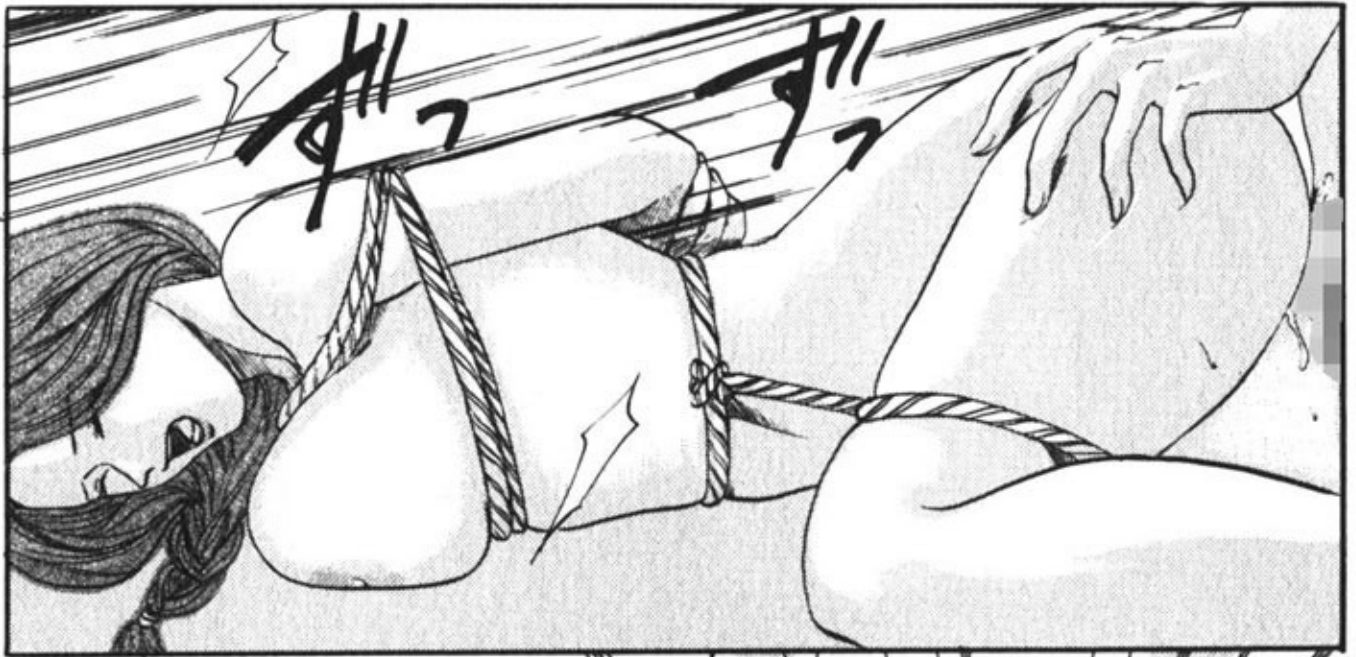
愛しいあなた

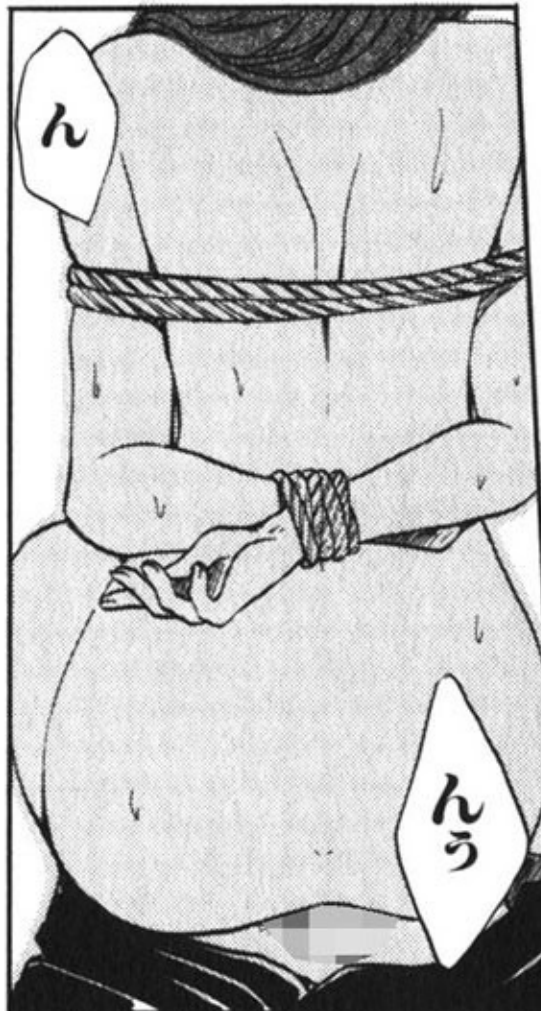
待っていたのよ

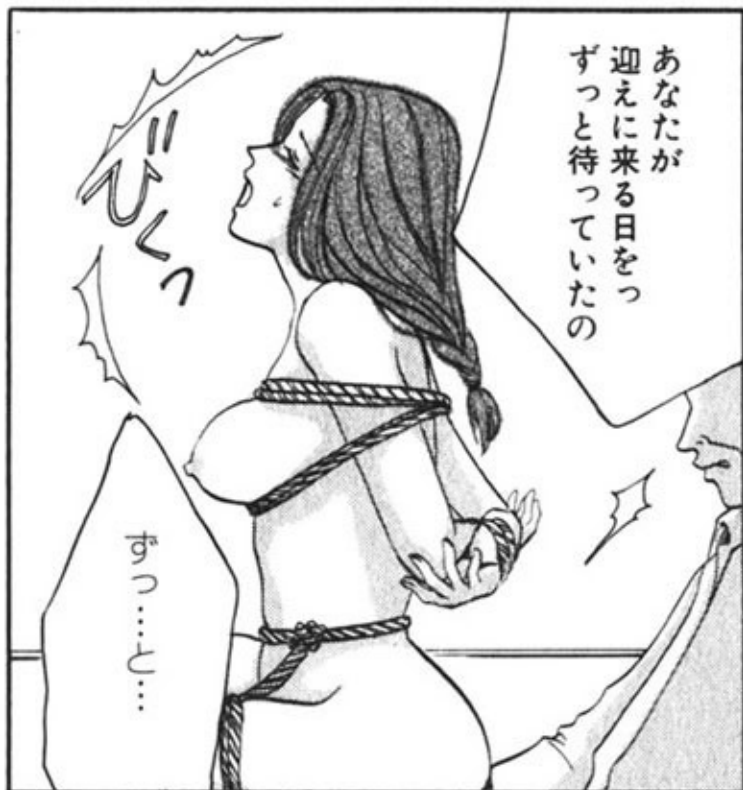


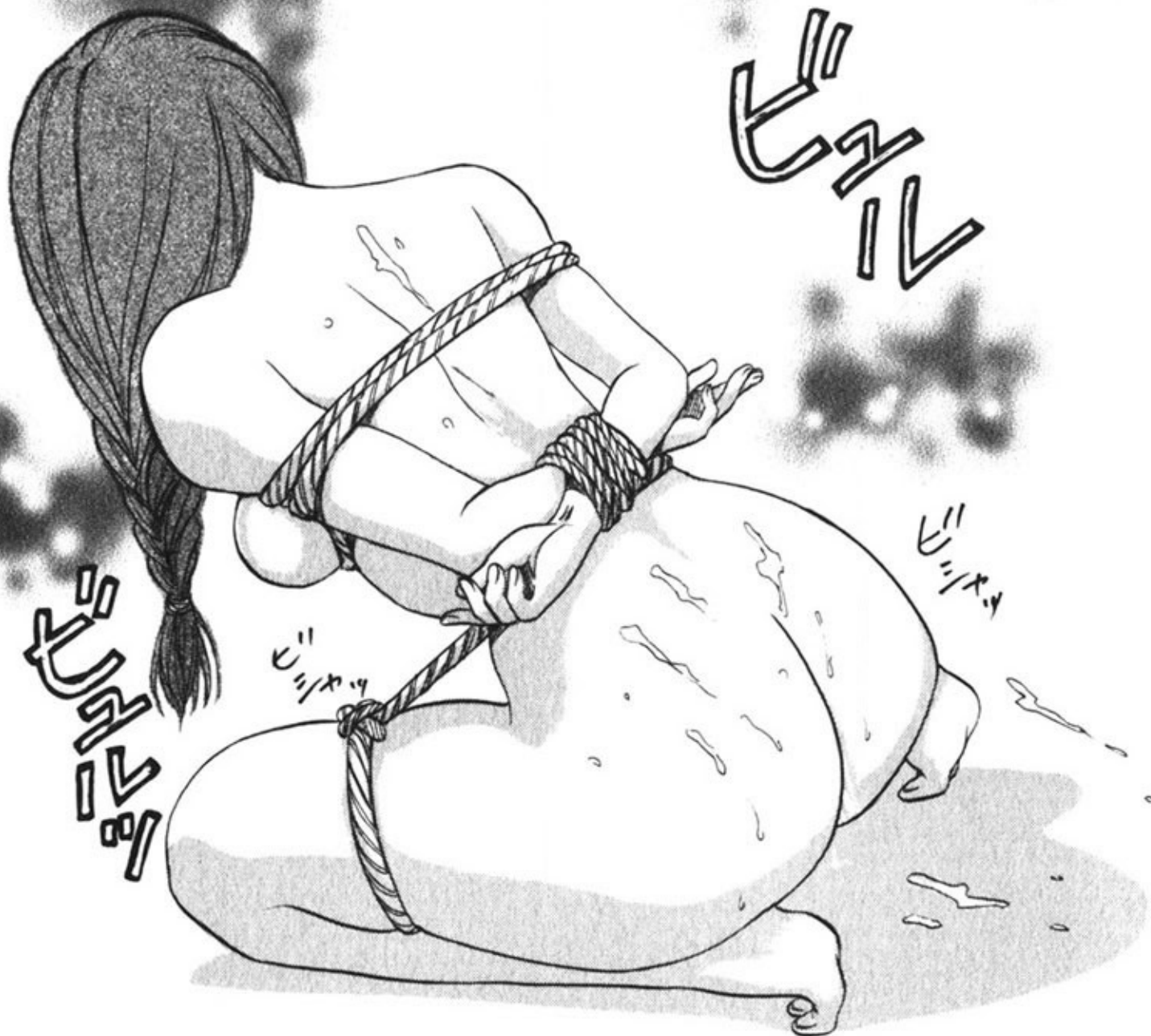


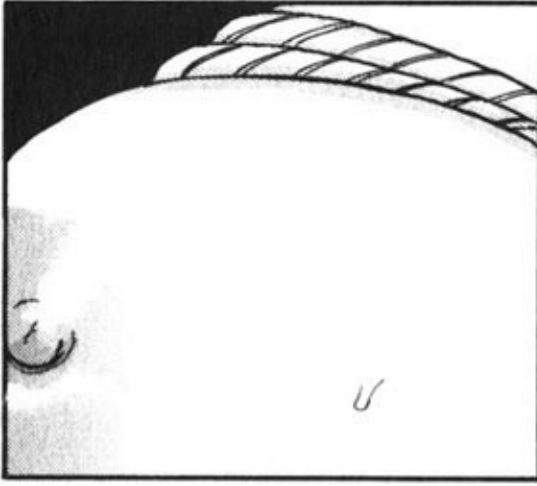












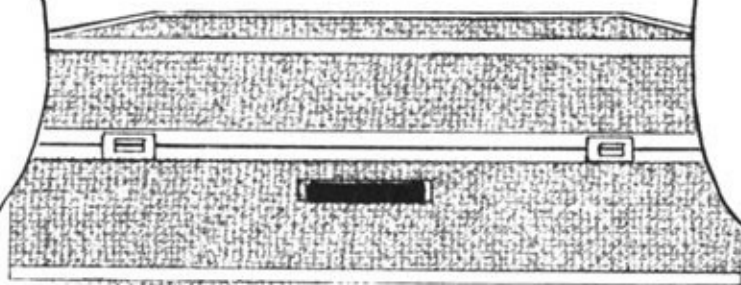
…綺麗だ…



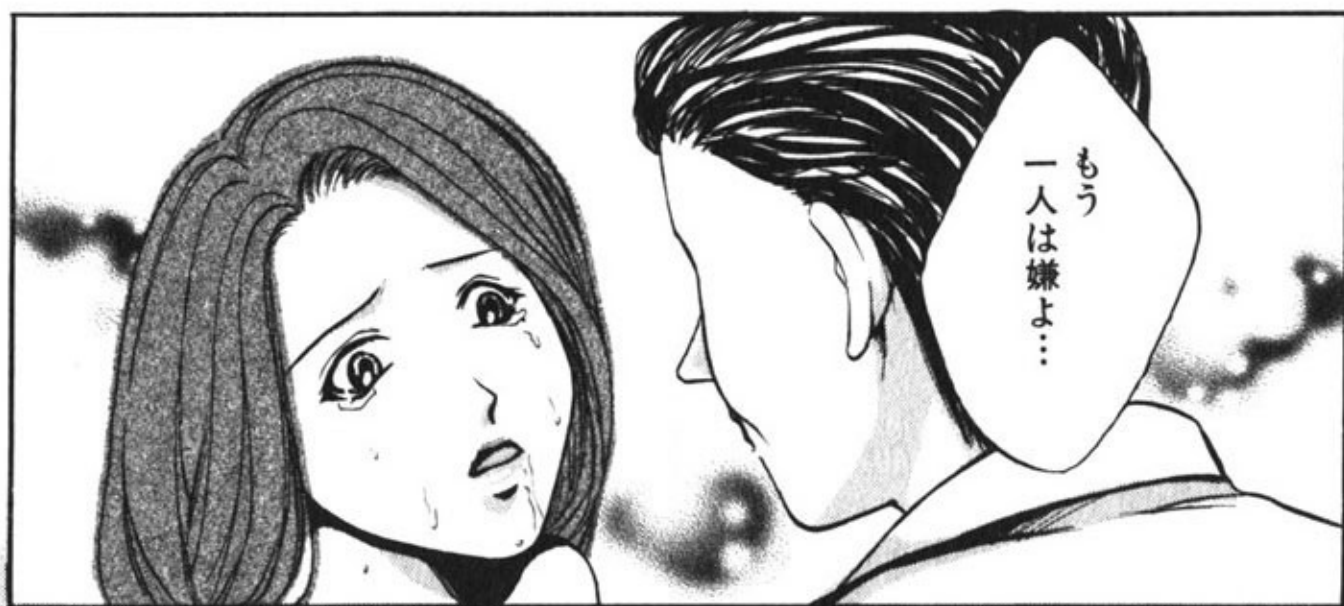
君はあのころと
少しも変わらない

—私はどんどん
年老いていくのに

私をあ
の箱に
とじ込
めてい
たのだ
もの



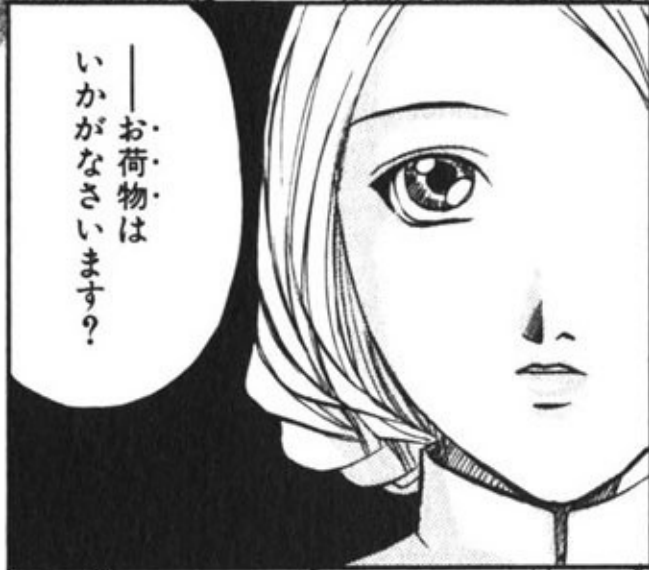
しかた
がない
わ
だつて
あなた
は
随分
長い
間

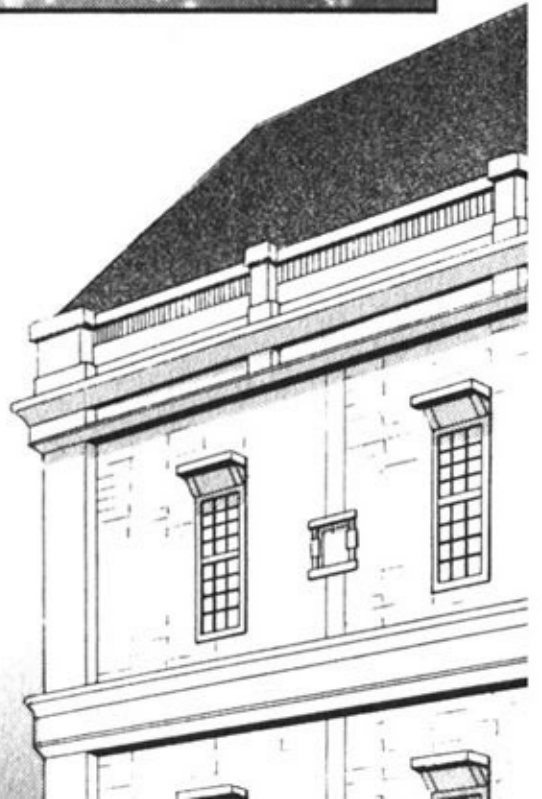
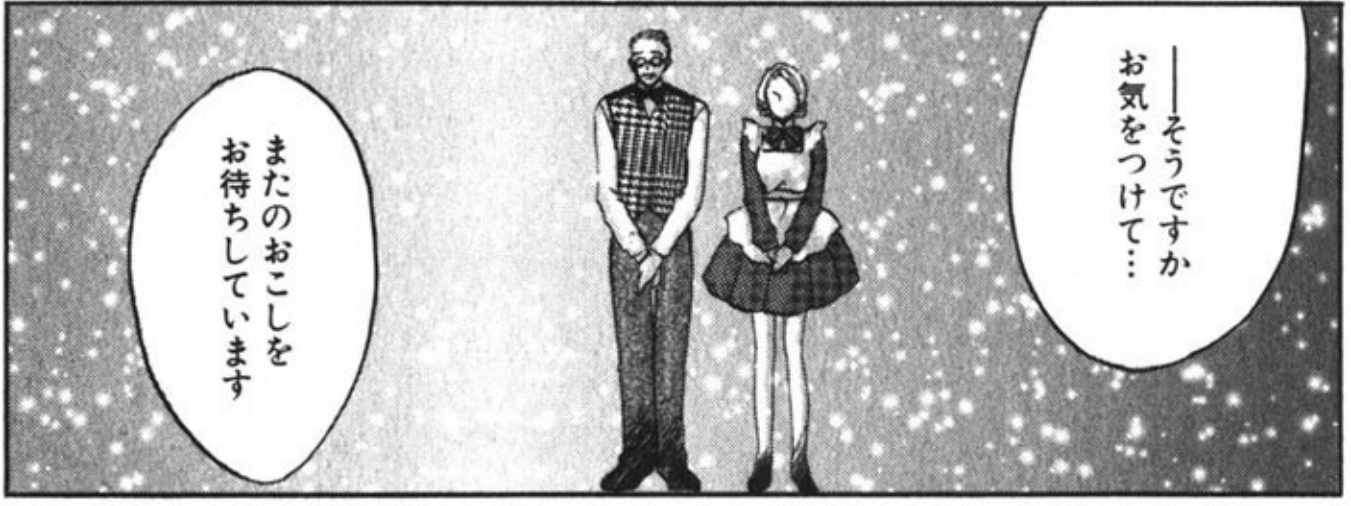
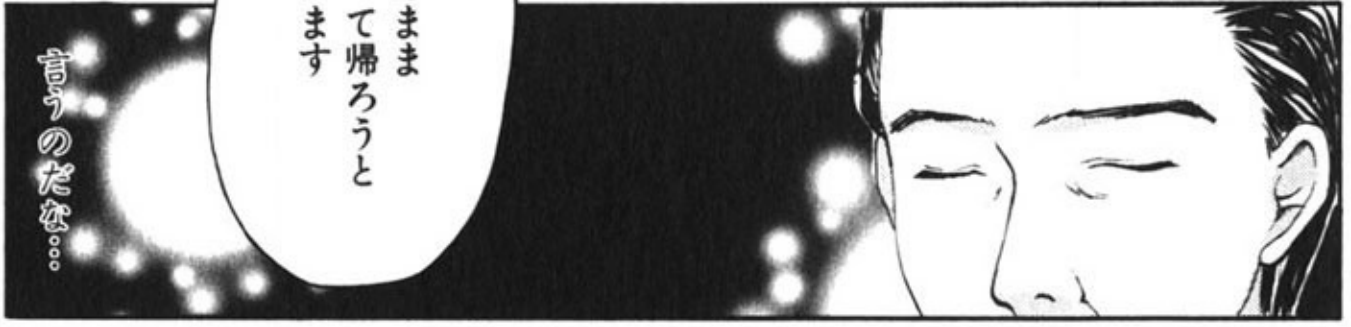


もう
一人は
嫌よ…

あんな
冷たい
箱に
もう二
度と私
を
しまわ
ないで…

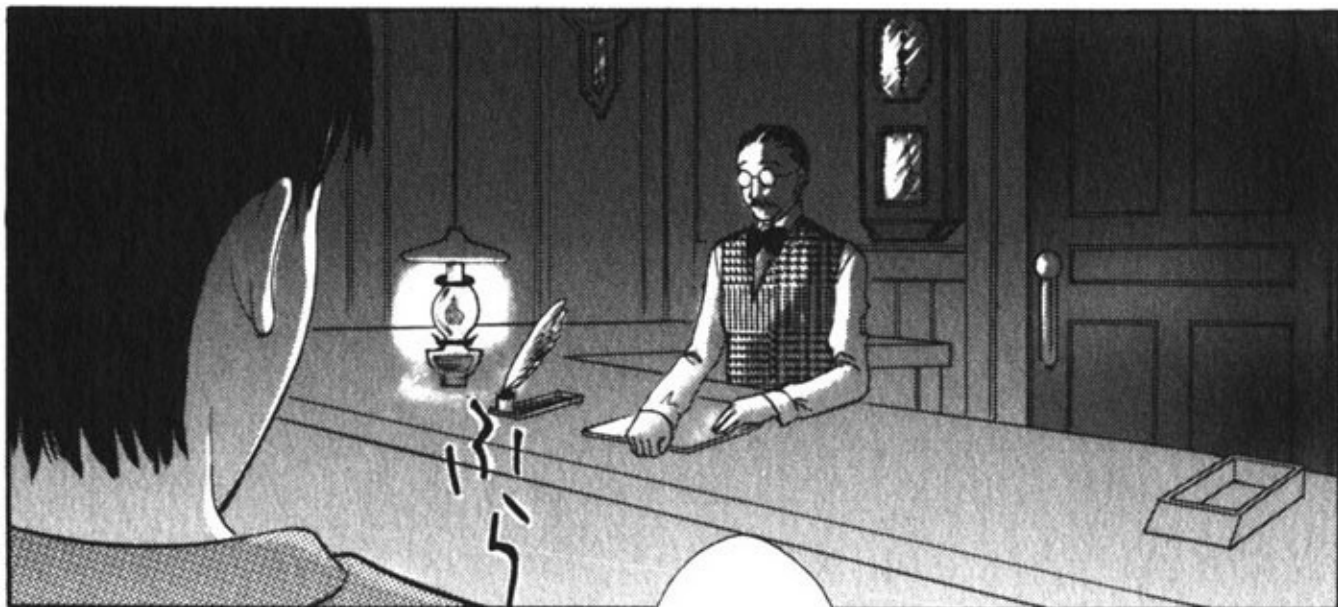








THE END



…あの



—伊ノ原様
ですね？
お待ちしております
いました…

時の無いホテル
～鎖～

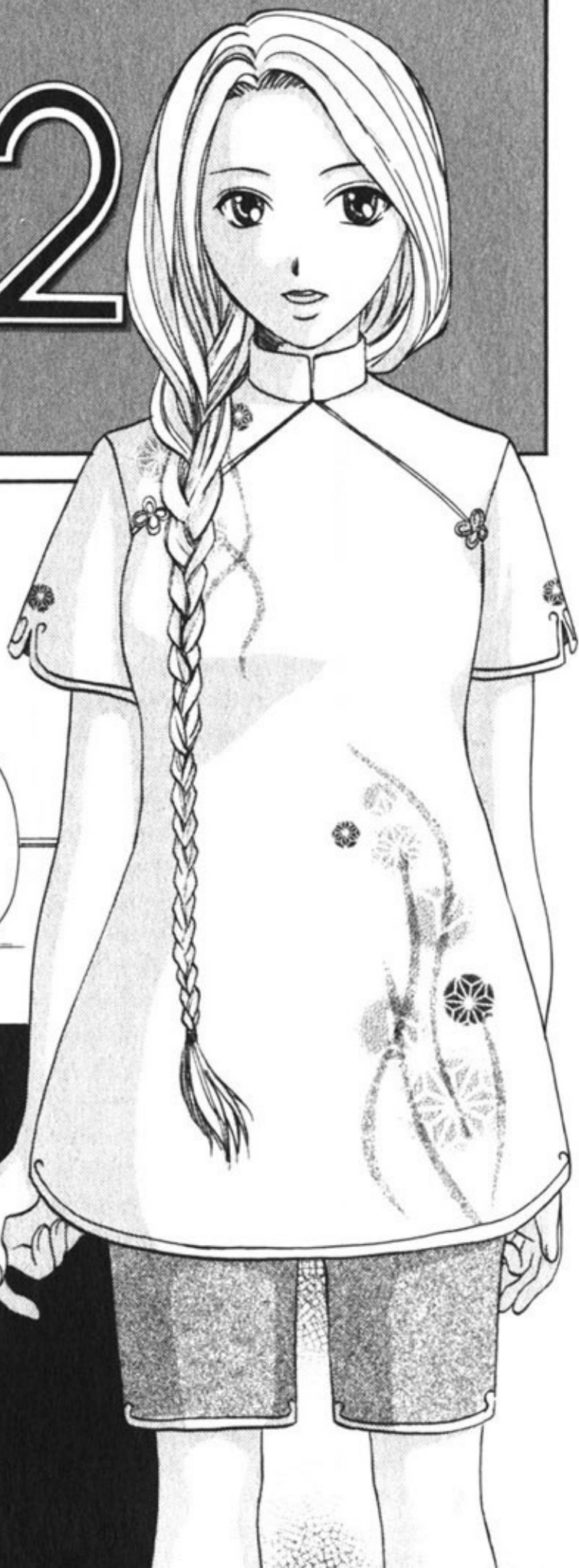
202


お探しのもの
届いていますよ



どうぞ

4+14



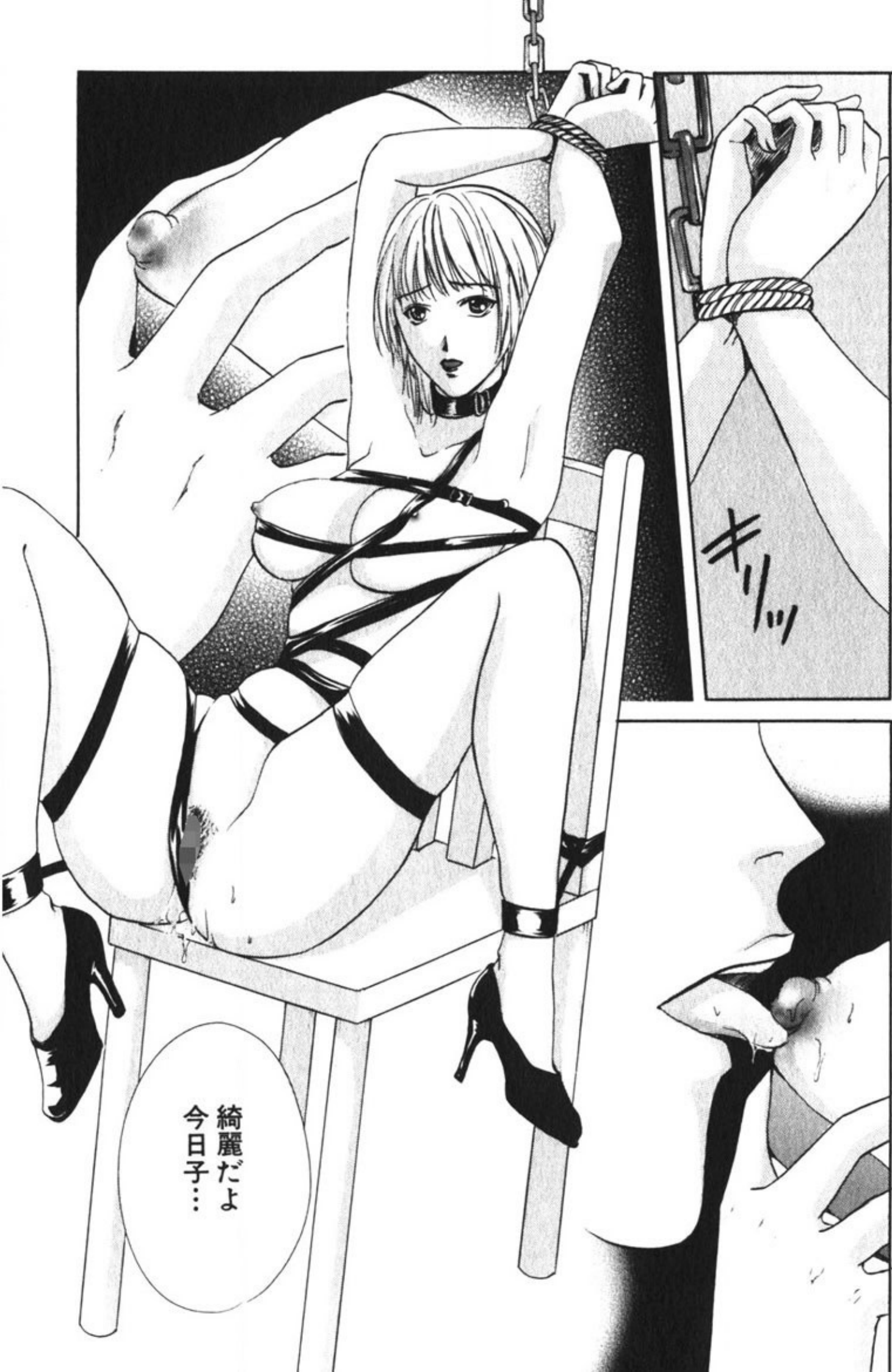


伊ノ原さん

…待っていたわ

今日子…

ねえ…いつものように
…して…



綺麗だよ
今日子…



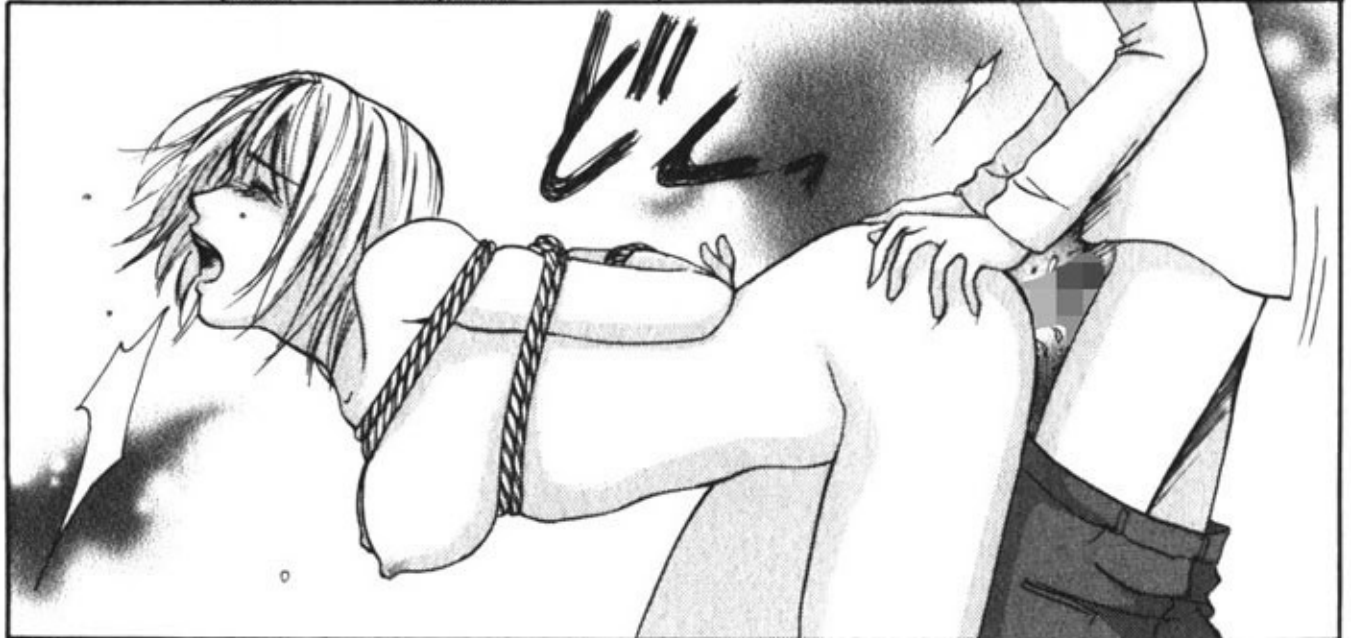




はあ…



お願い…
早く…











ああ…嬉しいわ
伊ノ原さん…

こんなに私のこと
愛してくれているのね

私も

愛してるわ

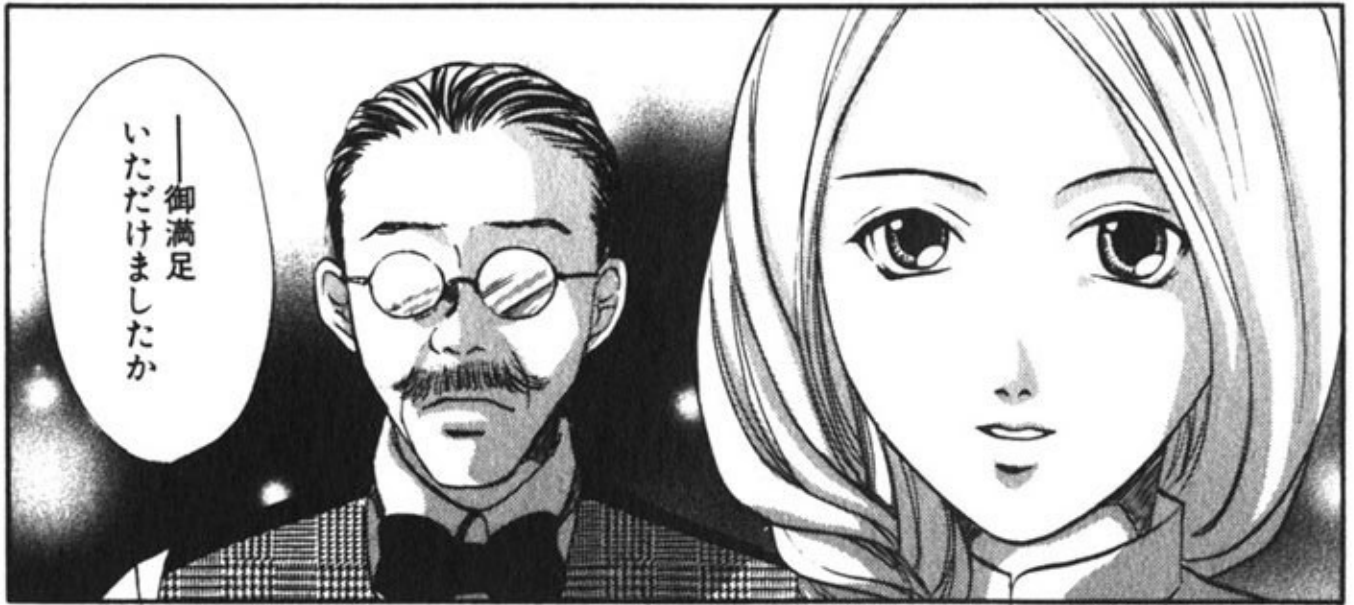


離したくない

あんな女になんか
渡さない…



お客様…



—御満足
—ただけましたか



ええ…



夢が叶って
嬉しいわ…

これでこの人は私のもの…



——急患の伊ノ原さん
亡くなったそうよ

眠ったまま
心臓が止まったん
ですってね

…婚約者も
気の毒よね

永遠に…ね…

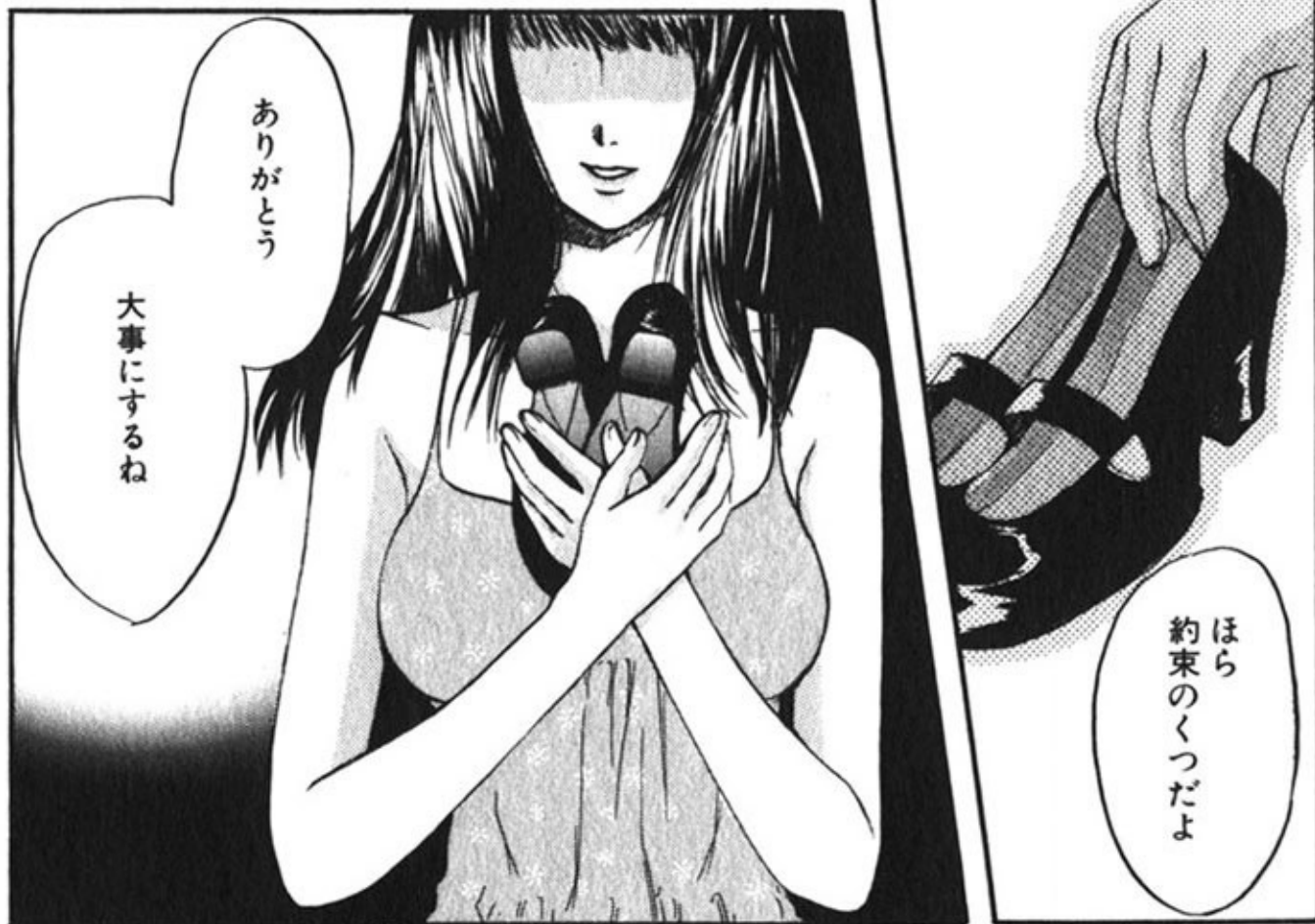
そう言えば
今朝亡くなった上野さん
…薬物中毒の…

確か伊ノ原さんが
運んで来たんだったわね
仕事場の同僚だったっけ

上野 今日子

案外 上野さんが
迎えに来たん
だったりしてね

THE END



ありがとうございます

大事にするね

ほら
約束のくつだよ

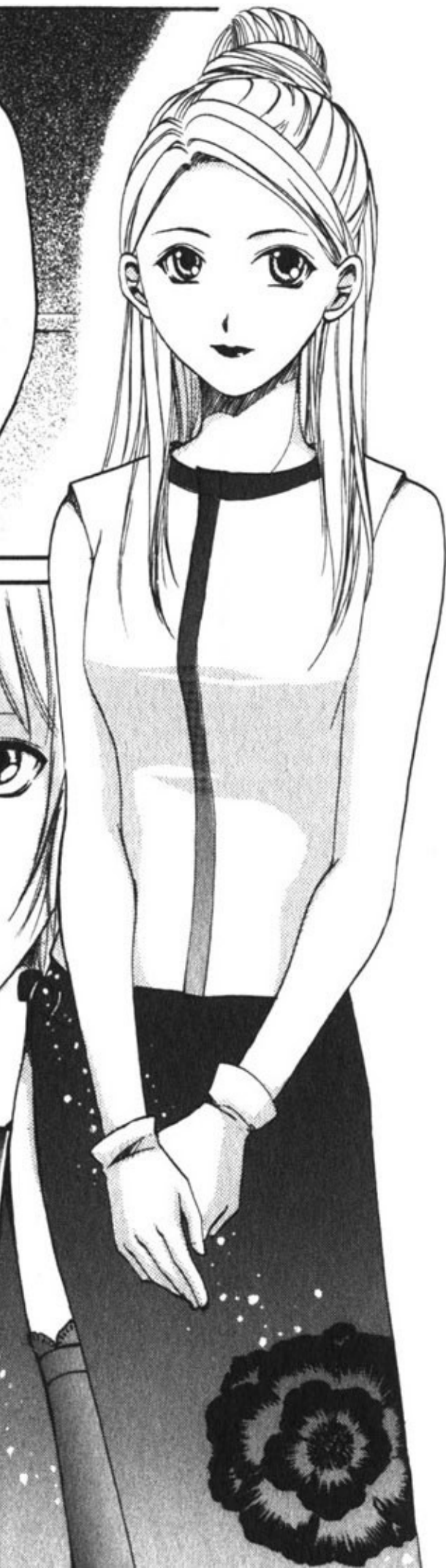


大事にするね...



お客様

どうかなさい
ましたか?



303

——こちらです
どうぞ…

……

じゅんくわ
お通じしよらら…

ごんん…

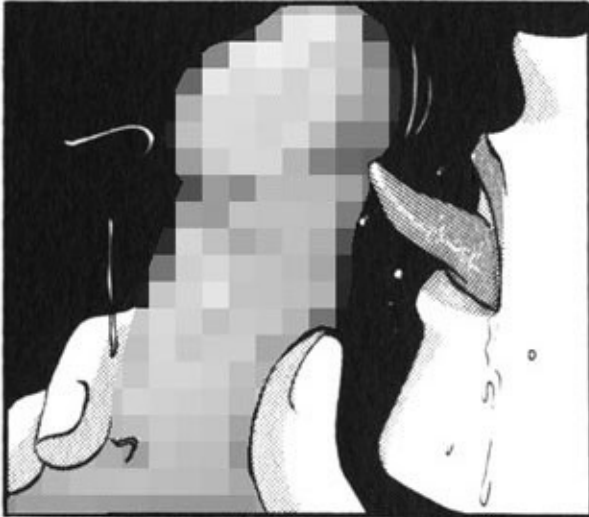
——待ってたの…



——会いたかった
恭ちゃん……



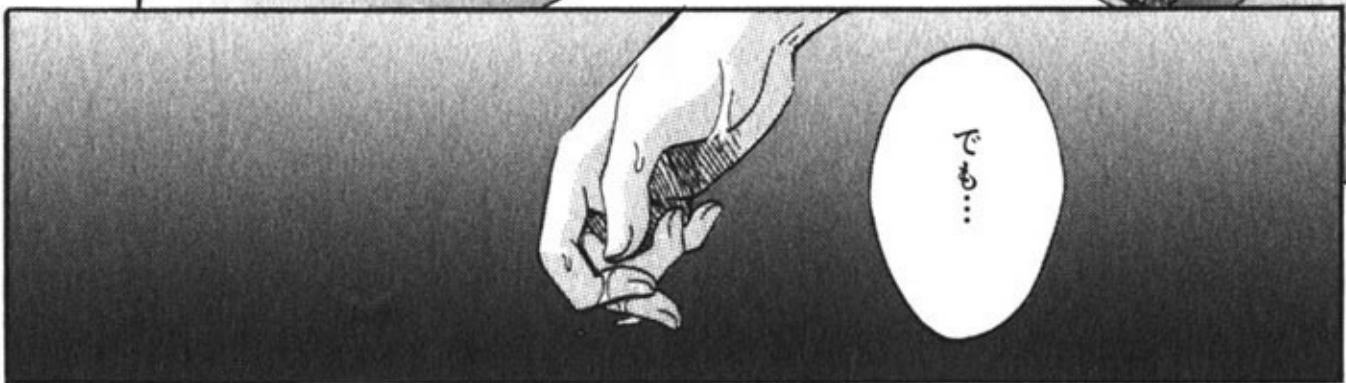






あ……

恭ちゃんの
においがする……



でも……



もっと恭ちゃんが
欲しいわ…

もっと…



はっ

んっあ

あ





あああつ



はあ

はあ

はっ

ねえ...
恭ちゃん...

このくつ
覚えてる?

恭ちゃんが
はじめてバイト料で
私に買ってくれた
くつよ...





私——本当に
大事にしてたのに

あの人たち
埋めてしまっ
たんですもの



恭ちゃんがくれた
大切な大切な
つながりに



みんなが言うの

「あの方は血が
つながっているから」



私ずっと好きだった...
恭ちゃんがいてくれれば
それで良かった


なのに

「兄さん」だから
駄目なんだって…


こんなに好きなのに
どうして!?

私…兄さんしか
恭ちゃんしか
いないのに…





兄ちゃんが
ずっと笑のそばに
いるから…



ずっと一緒だ…



— 恭 —

朝よ
起きてらっしゃい

恭一？



今日は笑の
お墓まいりに
行くんでしよう？



恭一
まだ寝てるの？

準備は出来てる
のか？

御希望通りの品を
用意させていただきましたわ

はい
こちらに…

カッ

じゅわん

黒髪に白い肌
朱い果実のような
唇…

豊かな腰に
美しい胸

感度のいい
肉体

そして

きんぽん

わん

はっ

はあ

はあ

はっ

はあ

はっ

どうです？
御注文通り
でしょうか？

はあ

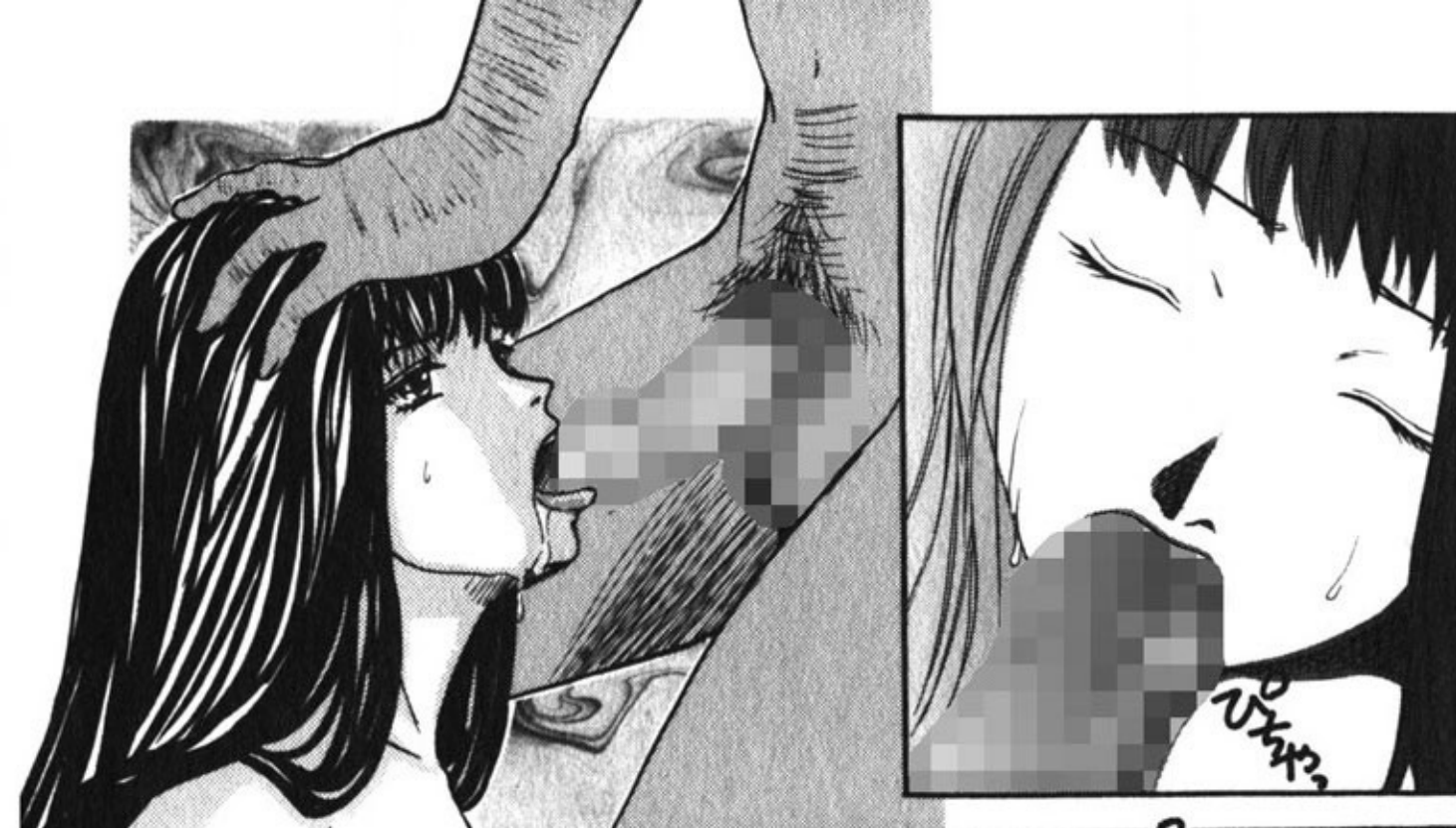
はあ

吾亦紅











ふふ
いい具合に
濡れてるな

はっ

自分で
足をかかえて
みろ



ごらん
こんなに簡単に
飲み込んでくれるよ

はっ



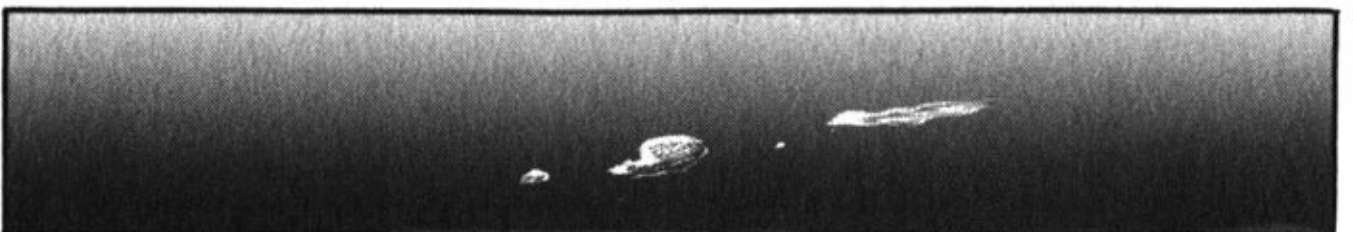
ああ綺麗だね...



ほらっ...

やっ?







—お前
口がきけないのか？

父様との最中も
ひと言も発さなかったね

ヒッ
セッ



もともと口が
きけないのか？
それとも…

私のように

ぐいっ
ぐいっ



父様につぶされたのか？

はぐいっ？



「だからもう一つ
空けよう」ってね



「お前は『私の桔梗』より
穴がひとつ足りない」



あ・の・男・は
私にこう言ったよ



私・は・『桔・梗』じ・や・ない
身がわりの名無し
の
ごんべさ



父は「桔梗」を愛してた
でもある日突然彼女は
死んでしまった……

はまっ

私は「同じ顔をしてる」
ただそれだけで
身がわりにされたんだ



ぐっ!!

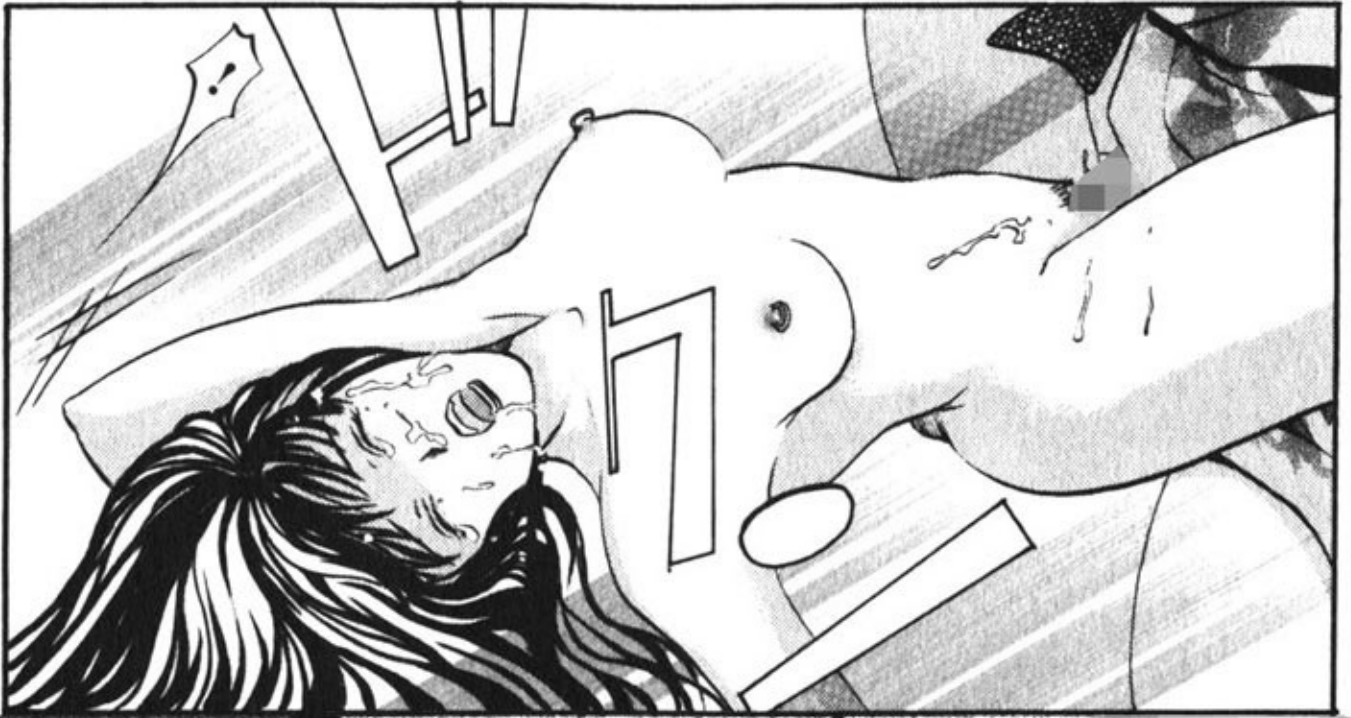
桔梗は

私の姉だった



ぐっ!!









—いい子だな
お前……

キョウ



……ふ……



私の本当の
名前だ……

お前に
名前をあげるよ



いい名だろ？

「^{お前}燕」っていうんだ

緋龍的戲言

この度は、このように拙いばかりの作品集をお買い上げくださりまして誠にありがとうございます。前作が発行されてからほぼ二年。自分の力の無さを実感いたします。

書き溜めてきた作品群も、古いものになればもう2年以上も前の作品になるのでしょうか。好きでやってきたお仕事です。これからもずっと好きでやっていけたらいいなあと思う今日この頃です。

『玩具少女』

私の漫画に出てくる女の子たちは何処かしら人形的な気がします。私自身、『人形』が好きで…手元に置くのは怖いなあと思うのですが、好きなんですよね。私の描く彼女たちはみんな『壊れて』しまっています。人間なんて完璧な生き物じゃないですからね。何処かしら壊れていて当たり前なのでは？と思うのですよ。そんな人のほうが、付き合っても面白いでしょ？完璧すぎる人は、疲れてしまいます…(苦笑)皆さんはそんな事はないですか？少なくとも、今の私はそう思うんです。

仕事や、人間関係や色々な事で悩んでいた頃。私の友人が、こう言ってくれました。

『好きなものは好きでいいんだよ』

自分が好きなんだから、何に恥じる事も無く『好き』だと言っていいのだと。嬉しかったですねえ。

今回書き下ろさせてもらった4コマは、そんな気持ちから描かせて頂きました。『緋龍高弘』はこんなのが好きで、こんな人間なんだよ。そう、ほんの少し、私を知って貰いたかったかな。漫画家の素性や実状なんて何の興味もないかもしれませんが、其処はそれ。『あら、この人こんなものが好きなんだわ』とでも思っていただければいいかな、と(笑)



人って変わってるなの2。



経済かって大事よね

人って変わってるなの。



末期 かもネ...

こんな感じの日常です...

女はどんなに小さくても『女』なんですよねぇ。
私がお世話になっている漫画家の先生のお嬢さん。
彼女はまだ小学一年生ですが、それでも立派に女です。
男の子よりも、女の子の方がきつとませているのでしょうね。
小さい頃、一緒に泥んこになって遊んでた相手が、
ある日突然『異性』になる。
きつと、男より女の方が意識してるでしょうね。
まあ、私なんかは性格なのか、環境なのか…
かなり男っぽく成長してしまいましたがね(笑)

小さい頃の遊び仲間が殆ど男の子でねえ。
草野球とか、サッカーとかしてました。
人形遊びより、その方が楽しかったんですよ。
今となってはもう…(泣)
年寄りなんで体が動かないんですよ…(苦笑)
まあ、そんなこんなで今現在
漫画描きなんかやってるわけですが。
楽しい事も苦しい事も、全てが私の日常。

『今が一番大事』

私の好きな某アイドル様(^_^;)のお言葉です。
今出来る事を精一杯やる。
私もそんなふう生きていきたいと思うのです。

ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。

緋龍 高弘 拝 2001年12月末日



緋龍
高弘
2001.12
☐

この本を発行するにあたりまして
編集のT辺さん、並びに松文館編集部の方々。
O桃書房のK田さん、S世社のS木さん。
本当にいろいろな方にお世話になりました。
何年たっても初心を忘れず、頑張っていきたいと思いますので、
これからもどうぞ御助力、御教授の程宜しくお願い致します。

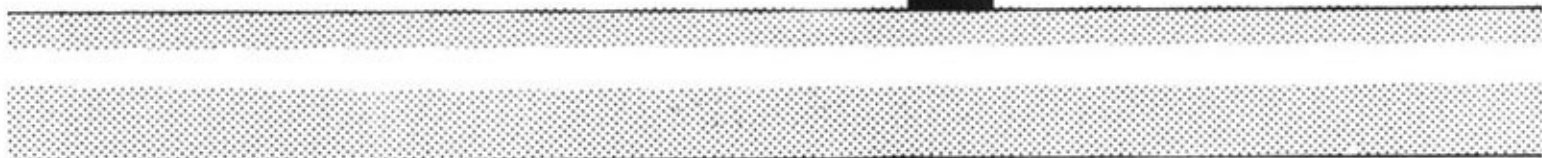
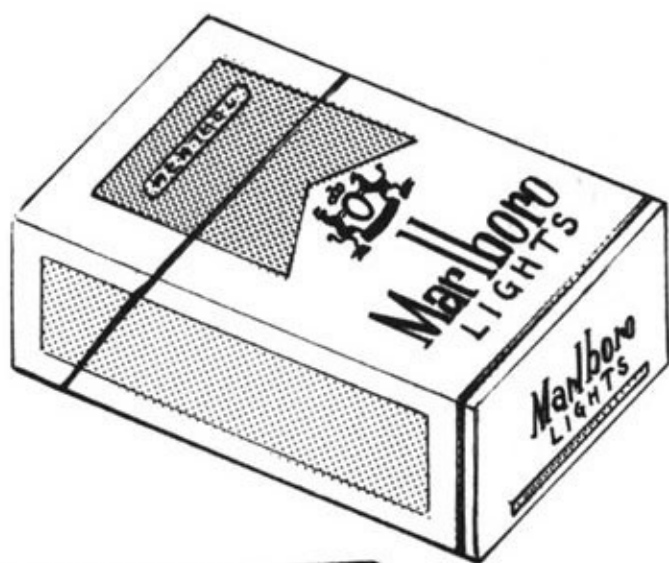
そして、いつも私を励ましてくれる
愛すべき『アトリエ・サヴァ』の皆さま。
愛しています。

この本を私の作品を楽しみにして下さる全ての方に捧げます。
ありがとう。

緋龍 高弘



special thanks for Sena and for
and all my friends
... and my darling.



contents

TOY GIRL

a story /1

朱い鎖—静寂の檻— /5

覚 醒 /21

哀玩具—千秋—1 /37

哀玩具—桜子—2 /53

哀玩具—玩具—3 /69

狂 愛 /85

時の無いホテル /101

時の無いホテル～鎖～
/117

時の無いホテル～靴～
/133

吾亦紅 /149

緋龍的戲言 /165

4コマ漫画 /166

あとがき1 /167

あとがき2 /168

Presented by
緋龍高弘

玩具少女

TOY
GIRL

玩具少女

初出

「朱い鎖」	2000年	鎖縛Vol.6
「覚醒」	2000年	鎖縛Vol.5
「哀玩具-千秋-」	2000年	鎖縛Vol.7
「哀玩具-桜子-」	2000年	鎖縛Vol.8
「哀玩具-玩具-」	2000年	鎖縛Vol.9
「狂愛」	2001年	鎖縛Vol.17
「時の無いホテル」		
	2000年	鎖縛Vol.10
「時の無いホテル」～鎖～		
	2000年	鎖縛Vol.11
「時の無いホテル」～靴～		
	2000年	鎖縛Vol.12
「吾亦紅」	2000年	鎖縛Vol.14
あとがき&4コマ		かきおろし

